



京都先端科学大学 大学院

GUIDE BOOK 2022

- 経営学研究科 [修士課程]
- 経済学研究科 [修士課程]
- 工学研究科 [博士課程前期・後期]
- バイオ環境研究科 [博士課程前期・後期]
- 人間文化研究科 [修士課程]

▶ 沿革

- 1951年 3月 学校法人京都学園創立
- 1969年 4月 京都学園大学開設
- 1995年 4月 大学院経済学研究科
修士課程開設
大学院経営学研究科
修士課程開設
- 2002年 4月 大学院人間文化研究科
修士課程開設
- 2010年 4月 大学院バイオ環境研究科
博士課程(前期・後期)開設
- 2019年 4月 校名変更
京都先端科学大学 大学院
- 2020年 4月 大学院工学研究科
機械電気システム工学専攻
博士課程(前期・後期)開設
- 2022年 4月 大学院経営学研究科
経営管理専攻
修士課程開設
-

CONTENTS

KUASの注目トピックス	2
経営学研究科	6
経営管理専攻(修士課程)	
経済学研究科	8
経済学専攻(修士課程)	
税理士養成コース	10
工学研究科	12
機械電気システム工学専攻(博士課程前期・後期)	
バイオ環境研究科	16
バイオ環境専攻(博士課程前期・後期)	
人間文化研究科	20
人間文化専攻(修士課程)	
2022年度大学院 入学試験ガイド	24
大学院長期履修 学生制度のお知らせ	25
交通案内	25

大学院によって、大学は進化する。 さらなる高みへ。

京都先端科学大学は、2022年4月に経営学研究科に“本当の経営を学ぶ”経営管理専攻（MBA）をあらたに開設し、経済学研究科、人間文化研究科、バイオ環境研究科、工学研究科とともに、広い分野で活動する大学院を設置する大学に進化します。

本大学院は、修士、博士の学位取得を目指す教育組織です。

大学院修了生は、現代社会が直面する近未来の困難な課題や多様な社会ニーズに主体的に対応するため、それぞれに重要な役割を果たします。

工学研究科ではコロナ禍により加速しているDX時代に必須となるハードからソフトにわたる多様な学術分野を深く学修し、新しい価値を導き出せる人材を、経済学研究科では幅広い分析能力と問題解決能力を兼ね備えた職能人材を、経営学研究科ではグローバルな視点から物事を考えて、様々な変化に対応できる経営人材を、人間文化研究科では人間の生き方や社会システムのあり方を追求した高度な専門知識を学修した人材を、バイオ環境研究科ではカーボンニュートラルも視野に入れた調和型地球環境整備をリードする人材の養成を目指します。そのときに求められるのは、人間への深い理解と、それらを社会実装するための知恵・知識、そして技術です。

本学では、高い専門性を備え、実践的な英語力を持ち、国際社会人としての基礎能力に富んだ人材を育てます。

世界が必要とする学術と人材を輩出する大学院として一層深い探求を行い、京都先端科学大学のブランドを大学院生、教員、職員がともに築きます。

そして、大学院生の皆さんが描く夢、未来を実現できるよう、教員、職員は一丸となって支援いたします。



学長
前田 正史

工学博士。東京大学 工学部卒／東京大学大学院 工学系研究科 金属工学専攻 博士課程修了。東京大学 生産技術研究所所長などを経て、東京大学理事・副学長を歴任。2016年10月～2019年3月まで日本電産株式会社生産技術研究所所長。研究分野は、「金属生産工学」「資源リサイクル」。2018年4月より京都学園大学副学長、2019年4月京都先端科学大学学長に就任。

新しいステージへ進む、KUAS の注目トピックス

京都先端科学大学大学院 ビジネススクール 2022年4月開講

京都先端科学大学大学院は 2022 年 4 月
高度化するテクノロジー、世界レベルで変容するマネジメント力や
ガバナンス対応を視野に、新しい企業価値の創造を担う
実践的なマネジメント人材の育成を目指し、
ビジネススクールを開講します。



研究科長紹介



経営環境の変化に適応し、勝ち抜く力を身に付ける

経済学研究科では、経済学に基づく高度な専門知識を備え、IT や AI を駆使してビッグデータの解析や活用を行うことのできる人材を養成します。現在、税理士コースの学生が中心となっていますが、今後は高度専門人材全般の育成にも取り組む予定です。

経営学研究科では、経営学専攻の募集を止めて、経営管理専攻（ビジネススクール）のみの募集を行います。近年の激変する経営環境に対応できる経営者を育成するために、まずは科目を絞った経営の基礎をしっかりと身に付けてもらい、次のステップで、DX 経営・ESG 投資・ブランディングなどの先端的な経営学やイノベティブな技術の開発・管理方法を修得してもらいます。

皆さんも自分の潜在力に賭けてみませんか。

経済学研究科長 経営学研究科長 **徳賀 芳弘**



目指すは“融合”と“創造”を実践するプロアクティブ・グローバル人材育成

既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらす「デジタル・トランスフォーメーション（DX）」が始まっています。ロボットや自動運転車はその一例です。DX 時代をリードしていくには、特定の技術分野に囚われることなくグローバルな視点で社会的ニーズの高い課題を見つけ、問題点を抽出し、デジタル技術を駆使してこれを解決できる高度専門技術者が求められています。本学工学研究科では、DX 時代に必須となる多様な技術分野を材料、エネルギー、情報、システムの4領域として捉え、自分の専門領域を定めて深く究めると同時に関連する3領域の知識も“融合”して深化させることで、新しい概念を“創造”し次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できる高度専門技術者を養成します。意欲ある皆さんの応募をお待ちしています。

工学研究科長 **田畑 修**



時代はバイオ環境科学のプロフェッショナルを求めている

このままの状況だと、2030 年には地球温暖化は不可逆的なステージに入り、ヒトと多様な生物が共存する地球は戻ってこないと言われています。今こそ、私たち人類は知恵を出し合い、地球環境を守り、生物の多様性を守り、ヒトを守ることが必要です。この“知恵”はどこかの書物に書いてあるものではなく、刻々と変化する地球環境の中で生物を観察し、作物を育成し、さらに環境と生物の関係を研究する中で初めて見出されるものです。私たちのバイオ環境研究科は、この地球を守るための研究を進め、そのプロフェッショナルの育成をおこなっています。バイオ環境科学のプロフェッショナルは、大学や研究所での研究だけでなく、企業活動や行政でもますます重要になります。未来の地球を作っていくのは若い皆さんです。私たちの研究科と一緒に学び、バイオ環境科学のプロフェッショナルを目指しませんか。

バイオ環境研究科長 **福田 裕穂**



人間文化研究科で1つのことを突き詰めて、突き抜けた研究をしよう！

皆さんはなぜ大学院に行きたいと思っているのですか？もちろん「研究」するためですね。それでは「研究」とは何でしょうか？大学生の頃に気づいていたと思いますが、高校までの「勉強」は答えのある問題をできるだけ効率的に解くことです。しかし大学や大学院での「研究」は、まず自分で問題を見つけることから始まります。そしてその問題の答えをいろいろな方法で見つけようとしています。もしかしたら、そもそも答えがないかもしれません。しかしその問題を考え抜くプロセスが大切です。その問題を突き詰めて考え続けることで、気がついたら突き抜けた研究をしています。皆さんも人間文化研究科で私たちと一緒に突き抜けた研究をしませんか。

人間文化研究科長 **佐藤 嘉倫**

私たちMBAが目指すこと

先端から「変わるチカラ」をともに生み出す



VUCA*といわれる不確かさを強く実感する時代が到来しています。

不確かな時代だからこそ、私たちMBAは

「未踏の未来を開く人材育成への教育改革」という信念から新しいビジネス教育に挑みます。

かつてインターネットによって世界はフラットになるとわれていました。

しかし情報が広くオープン化することで、様々な変化はむしろ突出した“先端領域 (Spiky Advance)”に集積してきています。

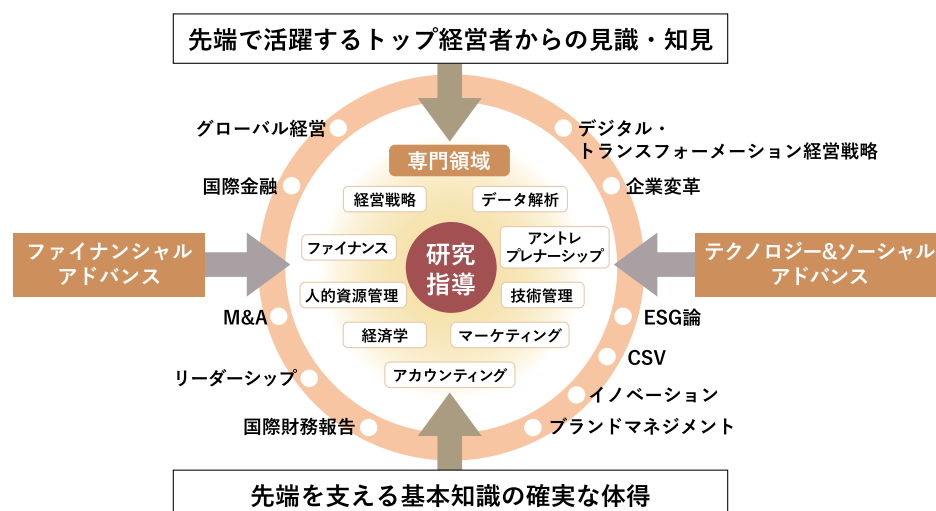
加速する未来が次々と到来し、“先端領域”は次代への淘汰と未来への変化を生み出す場となっています。

私たちMBAはこの“先端領域”から実践的マネジメント人材を育成しようと考えます。

今後世界は、デジタル・テクノロジーによる国際的なインフラでの劇的シフトから、経済トレンド、産業構造、事業推進で非連続的な変化が加速し、人々の生活や文化などもこうした“先端領域”の渦の中に巻き込まれていきます。私たちMBAでは、デジタル・トランスフォーメーション (DX)、ESG やSDGs、パーパス経営、インタングIBLEズ戦略、クロスボーダー M&A 対応、デザインやアート思考など様々な“先端領域”のテーマに対して自らが変化を生み出す人材の育成を目指していきます。

- 1) 意欲的に“先端領域”に取り組む教授陣が、今日の問題や課題に強い意識や関心を持つ学生とともに「変わるチカラ」を生み出していきます。
- 2) 経営での“先端領域”に関わる変化を通じてダイナミックなリーダーシップを生み、「実践を開く創造的経営」を担う人材を育成していきます。
- 3) 個々人が「学び合う」姿勢を介しく変化を感知しー方向を掴みー未来を変容させる>という強いケイパビリティへと反映させていきます。

専門視点から“先端領域”へ積極的に踏み込み、「人間としての基本思考 (リベラル・アーツ)」から実践へと学びを開く挑戦が本学の基本姿勢です。



* VUCAとは、Volatility = 変動性 Uncertainty = 不確実性 Complexity = 複雑性 Ambiguity = 曖昧性の略で、環境が目まぐるしく大変化し、将来の予測が困難になっている状況を意味する。

材料、エネルギー、情報、システムの4領域の 専門的な教授陣を擁する、 京都先端科学大学の「工学研究科」

詳細は
12Pへ

グローバルで高度な専門知識を有した技術者・研究者を育成します。

材料

担当：中村、堀井、今井、生津、松本

肉眼では見えないナノ材料の物性や機能を
独自技術で解明する — 生津資大 教授 —

数ナノメートルサイズの物体の強度実測や、材料をナノ化することで新たに発現する機能を探究しています。これらを支えるのはマイクロマシンや電子顕微鏡などを融合させた唯一無二の実験技術。世界に誇る独自テクノロジーで目に見えない物体を巧みに操り、次世代の半導体・自動車産業や医療技術に貢献します。



スマートモータ技術と発電機技術で
環境問題に貢献する — Fuat Kucuk 講師 —

エネルギー

担当：Castellazzi、高橋、岸田、Kucuk

電気自動車やドローンに搭載するモータを高効率化することは、化石燃料の消費を減らし、地球温暖化を防ぐことにつながります。私の研究室では、新素材やスマート制御技術を駆使した高効率モータや、再生可能エネルギーによる低コスト発電も可能にする、小型かつ高効率な発電機の開発を目指しています。



情報

担当：田畑、川上、Piumarta、Liang、Sera、西

脳のストレス異常を測定し睡眠障がい
の原因究明に挑む — Liang Zilu 講師 —

最先端のウェアラブル光脳機能イメージング技術と高度なビッグデータ解析手法を組み合わせることで睡眠中の脳活動を測定、ストレス関連異常を探索しています。目に見えない現象の測定は困難ですが、ストレスが睡眠障がいを引き起こす原因や、治療すべき脳の領域を解明することは、人が健康的に生きるために欠かせません。



オンライン技術をより正確に安全に行うための
ロボットを開発 — Sajid Nisar 講師 —

システム

担当：沖、福島、Salem、Nisar、佐藤

外科医が手術支援ロボットを遠隔操作する「オンライン手術」の普及にむけて、高度なロボット制御を可能にするウェアラブルロボットの研究開発を進めています。手術支援ロボットの扱いを訓練するVR環境や、手術の際に重要かつ今まで導入が難しかった「触覚」を提供するロボットグローブを開発しています。

世界各国から集まる国際色豊かな仲間と共に技術を磨きます。

○大学院修士課程 パタラニツ シリタマラクさんからのメッセージ

KUASに応募するまでは、言葉の問題で日本に来るのは簡単ではないと思っていました。しかしKUASは、工学部で完全英語のプログラムを用意してくれました。応募には日本語は必要なく、コースを取るまでは日本語を勉強しなくてもよかったです。日本語なしに日本で暮らすのに少し後ろめたさがありましたが、KUASのスタッフのおかげで全く問題ありません。とても優しく助けてくれるのです。

これまで身に付けてきたコンピュータ技術とソフトウェア開発の経験に加え、KUASで新しく学ぶ機械・電気技術に関する知識、そしてZilu Liang先生主催の研究室でデータサイエンスとAIに関するスキル、そのすべてを総合して「人々の健康意識を高める」というミッションを達成したいと思います。

パタラニツ シリタマラク
タイから令和2年9月入学



大学院入試トピックス

インターネット出願が可能

詳しい利用方法は「2022年度 京都先端科学大学大学院 入学試験要項」をご確認ください。※学内推薦選考除く。

① 入学検定料の支払いはクレジットカードやコンビニ、pay-easyで可能

② 24時間、出願可能

インターネット出願利用条件：E-mail アドレスを持っていること。

奨学金

本学では、多彩な奨学金制度を用意しています。全研究科共通のスーパートップスカラシップなど、意欲あふれる研究者を応援します。

名称	内容	金額等
スーパートップスカラシップ (全研究科)	博士課程前期および博士課程後期の希望者のうち、特別に優秀な者を対象とします。 ※各研究科若干名。	1. 入学金全額免除 2. 学費（授業料、施設設備費、実験実習費）全額免除 ※2年間または3年間（継続には学期ごとの成績審査があります） 3. 修学支援金 年間120万円 ※2年間または3年間（継続には学期ごとの成績審査があります）
大学院給付奨学金 (工学研究科除く)	研究及び学業等において本学大学院生の模範となる院生を対象とします。 ※各研究科若干名。	入学金・学費（授業料、施設設備費、実験実習費） 全額又は50%
成績優秀者特別奨学金 (工学研究科)	特別に優秀な博士課程前期希望者を対象とします。 ※第1種2名、第2種5名、第3種5名	第1種：入学金・学費10割 第2種：入学金・学費5割 第3種：入学金・学費3割 ※2年間（継続には学期ごとの成績審査があります） ※学費とは授業料、施設設備費、実験実習費を指します。
	特別に優秀な博士課程後期希望者を対象とします。 ※最大2名	第1種：入学金・学費10割 ※3年間（継続には学期ごとの成績審査があります） ※学費とは授業料、施設設備費、実験実習費を指します。

※企業から学費の支給がある企業派遣の方は、奨学金対象外です。
※最新の情報は本学HPをご覧ください。

3つのポリシー

アドミッション・ポリシー

各研究分野の高度な学識と先端的な知識や技能の修得を通じて社会に貢献しようとする意欲の高い人を求める。

カリキュラム・ポリシー

各研究分野の卓越した学識と応用力を修得できるようにカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー

各研究分野の学術研究者や高度専門の職業人として活躍するのに必要な識見を修得した者に学位を授与する。

教育上の目的

本学大学院の目的

本大学院は、京都先端科学大学の建学の精神を踏まえて、教育基本法及び学校教育法に基づき、専門分野における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、社会の進展に寄与することを目的とする。

本学大学院研究科の目的

本大学院経済学研究科は、現代経済社会の特性を踏まえつつ、国民生活の環境変化に伴う諸問題を分析し、広い視野に立って深い学識を修得し、高度な専門性の求められる職業を担うことのできる人材の育成を目的とする。

本大学院経営学研究科は、国際化・情報化・コンプライアンスの欠如といった社会環境の著しい変化の中にあつて経営組織体の内外で生ずる関連諸現象に関し、経営学的側面の理論的かつ応用実践的な専門能力を有する有為の人材育成並びに組織規模の大小、新旧を問わず、起業家精神を発揮して改革の担い手となることと、

デジタルトランスフォーメーションや新素材開発の進む中、新しい知見を社会実装してイノベーションを起こす人材を養成することを目的とする。

本大学院人間文化研究科は、人間の心理、社会の態様、文化の機能を多角的に解明する学問体系の構築を図り、歴史的な視点を踏まえて、現代社会が抱える諸問題の解決に寄与できる人材を育成することを目的とする。

本大学院バイオ環境研究科は、多様な生き物と共生できる持続可能な地域環境（バイオ環境）を作り上げることを目標とし、そのために、バイオ環境をデザイン（設計）する領域の発展と、これに対応したバイオテクノロジーと環境学を連携させた広い視野を持つ人材を養成することを目的とする。

本大学院工学研究科は、機械分野と電気分野に跨る学際的な工学分野の専門的知識・学術・教養を兼ね備え、グローバル社会への関心と、次世代の電気機械システムに必須の専門領域の高度な知識を修得し、さらに深化させることによって次世代の産業の創出と新たな価値の創出に貢献できる技術者・研究者を育成する。

経営学研究科

京都太秦キャンパス

Graduate School of Business Administration

経営管理専攻 修士課程 [修士(経営学)]

Major in Business Administration
[Master of Business Administration]

CONCEPT

研究科コンセプト

グローバルな視点から物事を考えて、
様々な変化に対応できる経営人材を育成します。

国内外いずれでも能力を発揮できるクリエイティブでイノベティブな経営者となるための素養を身につけます。

具体的には、既にデジタルトランスフォーメーション（DX）やメカトロニクスの新技術等の要素技術や応用分野に知見を持ち、エンジニアバックグラウンドのある社会人等に対しては、経営管理学の基礎を十分に身につけて企業経営全般に関わる意思決定と実行が担当できる経営人材へと養成し、文科系人材に対しては、今後のビジネスモデル構築、新商品・サービスの供給、社内資源の効率活用・業務運営に欠かすことのできないテクノロジーに関する正確な知見を身につけて、既成概念や古い経営手法にとられない企業変革に貢献できる人材へと養成します。



めざすキャリア

- | | | |
|--|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 企業における取締役兼トップ経営への参画 | <input type="checkbox"/> 金融機関 | <input type="checkbox"/> 流通 |
| <input type="checkbox"/> 新会社を設立する経営者 | <input type="checkbox"/> 製造業 | <input type="checkbox"/> 通信 |
| <input type="checkbox"/> 起業家 | <input type="checkbox"/> コンサルティング会社 | <input type="checkbox"/> SI（システムインテグレーション） |

CURRICULUM

カリキュラム

経営学研究科経営管理専攻の養成する人材像及び目的を実現するために、必要な授業科目及び研究指導を体系的・組織的に実施する教育課程を編成する。

本専攻のカリキュラム・ポリシーは以下のとおりである。

1. 授業科目を「コア科目」、「応用科目」及び「演習科目」の3つに分け、体系的に編成された教育課程を1年次から積み上げる形で履修できるようにする
2. 研究指導教員（スーパーバイザー）の指導の下で、学部時代の専門が理系の場合、文系で経済経営の場合、及び文系のその他の場合に分けて、それぞれが経営管理専攻で開講される応用科目・演習科目をスムーズに履修できるように、コア科目、既存の経済学研究科の開講科目、経済経営学部で開講されている科目の履修を促す
3. 1年生の段階から学位論文仮題目を設定し、論文審査の客観性・透明性の確保や研究水準の向上を図る観点から、本学教員や院生が参加可能な「中間報告会」、及び「最終試問試験」での報告と討論を義務化し、段階的指導を行う

コア科目	<input type="checkbox"/> 経営戦略
	<input type="checkbox"/> ファイナンス
	<input type="checkbox"/> マーケティング
	<input type="checkbox"/> アカウンティング
	<input type="checkbox"/> 人的資源管理
	<input type="checkbox"/> アントレプレナーシップ
	<input type="checkbox"/> 技術管理
	<input type="checkbox"/> 経済学
	<input type="checkbox"/> データ解析

応用科目	<input type="checkbox"/> DX経営戦略	<input type="checkbox"/> イノベーション
	<input type="checkbox"/> リーダーシップ	<input type="checkbox"/> CSV
	<input type="checkbox"/> 企業変革	<input type="checkbox"/> 税法概論
	<input type="checkbox"/> グローバル経営	<input type="checkbox"/> 企業改革税制
	<input type="checkbox"/> ブランドマネジメント	<input type="checkbox"/> 税務会計
	<input type="checkbox"/> ESG論	<input type="checkbox"/> 実践簿記
	<input type="checkbox"/> M&A	<input type="checkbox"/> 国際課税
	<input type="checkbox"/> 資産運用論	<input type="checkbox"/> 国際経済学
	<input type="checkbox"/> 国際財務報告	<input type="checkbox"/> 財政学
	<input type="checkbox"/> 国際金融	<input type="checkbox"/> 比較会社法

演習科目	<input type="checkbox"/> 研究指導
------	-------------------------------

ADMISSION POLICY

求める人物像

学士課程における専門科目の履修状況の差異に注目して教育課程を設けることとするため、これに対応してアドミッション・ポリシーを定める。

1. 経営管理の理論・実践を修得したいという強い意欲を有している者
2. 国際的に通用する修士課程学位の授与のため、高い英語力を有している者
3. 新しい知見を社会実装してイノベーションを起こす人材の育成を目的とした教育課程とプログラムに対して、旺盛な知的意欲と社会的役割をもって参加し、相互に切磋琢磨できる資質を有する者
4. 幅広い教養と経営学など専門分野について基礎知識・能力を有し活用できる者

TEACHING STAFF

教員紹介

<p>徳賀 芳弘 教授 博士(経済学)</p> <p>担当 研究指導</p> <p>科目 「国際会計論」(中央経済社)</p> <p>著書 "Accounting Regulation in Japan: Evolution and Development from 2001 to 2015", (Routledge) 共著 ほか多数</p>	<p>名和 高司 教授 経営学修士</p> <p>担当 経営戦略 アントレプレナーシップ</p> <p>科目 デジタルトランスフォーメーション経営戦略</p> <p>企業変革 グローバル経営 イノベーション CSV</p> <p>著書 『成長企業法則～世界トップ100社にみる21世紀型経営のセオリー』(2016、ディスカヴァー・トゥエンティワン) ほか多数</p>	<p>谷口 隆義 教授 博士(経済学)</p> <p>担当 税法概論 企業改革税制 税務会計 研究指導</p> <p>科目 「ミャンマー会計制度の研究」中央経済社 2019年9月14日</p> <p>著書 単著 ほか多数</p>
<p>加藤 康之 教授 経済学博士</p> <p>担当 ファイナンス ESG論 資産運用論 研究指導</p> <p>科目 「The Emergence of ETFs in Asia-Pacific (English Edition)」, Springer, May, 2019 ほか多数</p>	<p>森 一彦 教授 社会学修士</p> <p>担当 マーケティング ブランドマネジメント 研究指導</p> <p>科目 「最新ブランドマネジメント体系理論から広告戦略まで」(1997年)経広告研究所/日本経済新聞社</p>	<p>西村 周三 教授 経済学博士</p> <p>担当 研究指導</p> <p>科目 社会保障費用統計の理論と分析、慶応義塾大学出版会、2014年(共著) ほか多数</p>
<p>跡田 直澄 教授 博士(経済学)</p> <p>担当 財政学 研究指導</p> <p>科目 「社会保障一体改革への途」(清文社)</p> <p>著書 「企業税制改革」(日本評論社) ほか多数</p>	<p>小野里 光広 教授 修士(法学) 修士(国際経営学)</p> <p>担当 比較会社法</p> <p>科目 「イギリス会社法における取締役の行為の追認とその限界」(国際商事法務Vol.46, No.8)</p> <p>著書 「オーストラリア会社法における「支払不能取引」回避義務(2・完)」(京都先端科学大学経済経営学部論集1号) ほか多数</p>	<p>清水 裕子 准教授 経営管理博士</p> <p>担当 国際経済学 研究指導</p> <p>科目 "The Locavore's Dilemma." (Public Affairs, 2012(共著))</p> <p>著書 "Blowing Hot Air on the Wrong Target?" (Frontier Center for Public Policy, 2016(共著)) ほか多数</p>
<p>道和 孝治郎 准教授 博士(経済学)</p> <p>担当 国際金融 研究指導</p> <p>科目 「新しい開放マクロ経済学」に基づく金融政策の国際波及効果—ドル建て取引を仮定した日米ANIES3ヶ国モデルによる分析—(一橋大学「経済研究」59-1, 2008) ほか多数</p>	<p>金井 猛徳 准教授 緑地環境学博士</p> <p>担当 データ解析 研究指導</p> <p>科目 「3次元深度センサを用いたジェスチャ操作によるデジタル教材システムの提案」(共著:コンピュータ&エデュケーション, No.46, pp.70-75)</p> <p>著書 「Assessing daily tropical rainfall variations using a neuron-fuzzy classification model」(共著:Journal of Ecological Informatics, 2(2), pp.159-166) ほか多数</p>	<p>呉 綺 講師 博士(経営学)</p> <p>担当 実践簿記 研究指導</p> <p>科目 「中国におけるMFCAの展開」(共著:同文館出版、「マテリアルフローコスト会計の理論と実践」所収)「補論中国における低炭素型サプライチェーン経営の調査分析結果」(共著:中央経済社、「低炭素型サプライチェーン経営—MFCAとLCAの統合—」所収) ほか多数</p>
<p>石原 卓典 講師 修士(経済学)</p> <p>担当 経済学</p> <p>科目 石原卓典, 依田高典. (2020). 情報提供が表明選好に与える影響:自由化前の電力料金選択のフィールド実験. 経済論叢, 194.3:49-65. ほか多数</p>	<p>中山 純一郎 教授 工学修士</p> <p>担当 技術管理</p> <p>科目 論文 磁気的超解像変調オーバーライト媒体 Magnetic-Super-Resolution Overwritable Magneto-Optical Medium ID 110002809876</p>	<p>守屋 貴司 教授 博士(社会学)</p> <p>担当 人的資源管理</p> <p>科目 2020/02 人材危機時代の日本の「グローバル」人材の育成とタレントマネジメント—見捨てられる「日本・日本企業」の処方箋 , 1-218 (単著) ほか多数</p>
<p>山田 善隆 教授 会計学修士</p> <p>担当 国際財務報告</p> <p>科目 IFRS会計学基本テキスト(第5版)中央経済社(2017/02 発売) ほか多数</p>	<p>鈴木 寛之 教授 会計・ファイナンス博士</p> <p>担当 アカウンティング</p> <p>科目 "Responsibility Accounting and the problem of self-interest: A Field Study in a Japanese Corporation" PhD Thesis (unpublished).</p>	<p>伊藤 友則 教授 経営学修士</p> <p>担当 M&A</p> <p>科目 「最適資本構成は「最適」か」一橋ビジネスレビュー2014年 冬号, 東洋経済新報社, 62(3), 110-124 ほか多数</p>
<p>前田 正宏 教授 修士(租税学)</p> <p>担当 国際課税</p> <p>科目 カナダにおける会社分割とわが国における課税関係 ほか多数</p>		

経済学研究科

京都太秦キャンパス

Graduate School of Economics

経済学専攻 修士課程

CONCEPT

研究科コンセプト

幅広い分析能力と問題解決能力を備えた 高度な職能を誇る人材の育成をめざします。

成熟化した日本の経済社会は、少子高齢化やグローバル化、さらにはICT化など先進国に共通する課題に加え、財政赤字の急増や経済格差の拡大など、今後その影響が深刻化するものと予想される諸問題に直面しています。本研究科は、現代経済社会の特性を踏まえつつ、国民生活の環境変化に伴う諸問題を分析し、広い視野に立って深い学識を修得し、高度な専門性が求められる職業を担うことのできる人材の育成をめざしています。講義科目は、経済学研究のための「理論分野」と「政策分野」に加え、税理士資格取得に役立つ「経営学・法学分野」から構成され、それぞれの研究テーマに応じて体系的に学びを深化させていきます。また所定の科目群の単位を修得することにより、ファイナンシャルプランナーの国際資格「CFP」の受験資格が取得できる『CFP認定教育プログラム』も用意されています。



めざすキャリア

経済社会活性化の担い手

- 民間企業
- 公務員

金融経済の担い手

- 税理士
- 金融アナリスト

CURRICULUM

カリキュラム

経済学の標準的な教育プログラムに基づきつつ、政策形成能力の養成に必要な専門知識の修得を重視。大きくは講義科目と演習科目に分かれ、講義科目は経済学的な思考方法と分析方法を重視した「理論分野」と、現実の政策課題を多角

的・総合的に分析し考察する「政策分野」で構成。両分野に共通する科目群としての統計処理やコンピュータ処理に関する領域も充実しています。

<p>理論分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 経済学史 <input type="checkbox"/> 近代経済学史 <input type="checkbox"/> ミクロ経済学 <input type="checkbox"/> ミクロ経済分析 <input type="checkbox"/> マクロ経済学 <input type="checkbox"/> マクロ経済分析 <input type="checkbox"/> 計量経済学 <input type="checkbox"/> 経済統計学 <input type="checkbox"/> 時系列データ分析 <input type="checkbox"/> 時系列モデル <input type="checkbox"/> 情報科学 <input type="checkbox"/> 金融経済論 <input type="checkbox"/> 国際経済学 <input type="checkbox"/> 国際金融論 <input type="checkbox"/> 財政学 <input type="checkbox"/> 公共経済学 <input type="checkbox"/> 経済社会学 <input type="checkbox"/> 社会経済史 <input type="checkbox"/> 西洋経済史 <input type="checkbox"/> パーソナルファイナンス <input type="checkbox"/> リスクの経済学 <input type="checkbox"/> リスク・マネジメント <input type="checkbox"/> 不動産運用設計 	<p>【演習科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 理論経済学演習 <input type="checkbox"/> 経済学史演習 <input type="checkbox"/> 計量経済学演習 <input type="checkbox"/> 時系列解析演習 <input type="checkbox"/> 金融経済論演習 <input type="checkbox"/> 社会経済史演習 	<p>政策分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 経済政策論 <input type="checkbox"/> 比較経済政策論 <input type="checkbox"/> 公共政策論 <input type="checkbox"/> 社会政策論 <input type="checkbox"/> 産業政策論 <input type="checkbox"/> 金融政策論 <input type="checkbox"/> 財政政策論 <input type="checkbox"/> 地域経済論 <input type="checkbox"/> 交通経済論 <input type="checkbox"/> 租税論 <input type="checkbox"/> 租税制度論 <input type="checkbox"/> 税務会計実務 <input type="checkbox"/> 新会計基準と法人税 <input type="checkbox"/> 技術移転論 <input type="checkbox"/> 技術戦略論 	<p>【演習科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 経済政策論演習 <input type="checkbox"/> 公共経済学演習 <input type="checkbox"/> 地域経済論演習 <input type="checkbox"/> 地域交通論演習 <input type="checkbox"/> 租税論演習 <input type="checkbox"/> 技術移転論演習 <input type="checkbox"/> 社会政策論演習 <input type="checkbox"/> 租税法演習 	<p>経営学・法学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 経営戦略論研究 <input type="checkbox"/> 中小企業経営論研究 <input type="checkbox"/> 会計学研究 <input type="checkbox"/> 監査論研究 <input type="checkbox"/> 管理会計論研究 <input type="checkbox"/> 財務諸表論研究 <input type="checkbox"/> 租税法総論 <input type="checkbox"/> 租税手続法 <input type="checkbox"/> 租税争訟法 <input type="checkbox"/> 所得税法 <input type="checkbox"/> 法人税法 <input type="checkbox"/> 民法総則 <input type="checkbox"/> 行政作用法 <input type="checkbox"/> 会社法 <input type="checkbox"/> 経済法 <input type="checkbox"/> 法情報処理
---	--	--	---	--

年度により開講科目が変更されることがあります。

ADMISSION POLICY

求める人物像

- 本研究科では、経済学部卒業者及びこれらと同等の学力を有する者で、かつ以下の条件を満たす者を受け入れる。
1. 高度な専門性を身につけて、社会の様々な分野で活躍する職業人を目指す者。
 2. 経済学に立脚しつつ経営学や法学等の学問領域横断的な問題に対する解答を見出したい者。

TEACHING STAFF

教員紹介

跡田 直澄 教授 博士(経済学)

担当 財政学 財政政策論

科目

著書 「社会保障一体改革への途」(清文社)
「企業税制改革」(日本評論社) ほか多数

論文

税・財政・社会保障政策の家計・企業・マクロ経済に与える影響を実際のデータに基づいて分析し、政策のあり方を研究する。

平田 謙輔 教授 修士(経済学)

担当 経済社会学 社会政策論 社会政策論演習

科目

著書 「社会保障の光と影」(高菅出版)
論文 「W.L.レブケの経済・社会政策構想」 ほか多数

社会保障の意義と課題について理解を深めるとともに、福祉国家が抱える問題とその転換の方向について考察する。

村田 淑子 教授 修士(アメリカ研究)

担当 経済法 法情報処理

科目

著書 「英国競争法の最近の動向—競争・市場庁の創設を中心に」(「競争法の理論と課題」所収)「欧州と日本における証券取引所グループの合併と競争法」(同志社法学71巻1号) ほか多数

論文

「経済法」では、市場経済における「公正かつ自由な競争」を促進する独占禁止法について、主にカルテル規制を中心に検討する。「法情報処理」では、法学部出身者以外による法学の修士論文作成に必要なスキルの習得を目指す。

土屋 貴裕 准教授 修士(経済学) 博士(安全保障学)

担当 産業政策論 地域経済論 地域経済論演習

科目

著書 「現代中国の軍事制度:国防費・軍事費をめぐる党・政・軍関係」(勁草書房) ほか多数

論文

日本および東アジアの地域経済について、フィールドワークを実施したり、統計データや資料を利用して理解を深めていく。修士論文の執筆を通じて、地域が抱える課題を分析し、解決策としての経済産業政策を検討する。

小川 顕正 准教授 博士(国際公共政策)

担当 マクロ経済学 マクロ経済分析 交通経済論 地域交通論演習

科目

著書 「マイナンバーカード普及率の要因分析」(2021)
論文 「地方公会計の整備と自治体歳出」(2020) など

政府間財政関係や政府のマネジメント・ガバナンス、政治過程が財政に与える影響について実証分析を行い、既存政策の評価やあるべき制度について検討する。

大野 彰 教授 経済学修士

担当 社会経済史 西洋経済史 社会経済史演習

科目

著書 「外国経済史の基礎知識」(共著:斐閣) ほか多数

論文

資料を集め、これに様々な解釈を加えることによって、歴史的な角度から経済について考察することが、本演習の目標である。受講生が興味をもって経済史を学べるようにしたい。

堀村 不器雄 教授 商学修士 公認会計士

担当 租税論 租税制度論 税務会計実務

科目 新会計基準と法人税 租税論演習

著書 「会社税務事例300選」(共著:清文社)
「資本取引等をめぐる会計と税務」(監修:清文社) ほか多数

日本の税法ないし税制について体系的に理解した上で、その現状と問題点、あるべき姿といった点について、各自が自分のテーマに従って深く掘り下げ、修士論文として完成させることを目指す。

澤田 吉孝 准教授 博士(商学)

担当 金融経済論 経済政策論 金融経済論演習

科目

著書 「The Effectiveness of Unconventional Monetary Policy in USA」, Proc. of the 45th ISCTE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (SSS' 13), 2013. ほか多数

論文

無知からくる「誤った政策」は、善意であっても災禍をもたらす。このことを念頭に最新の金融理論を用いて日本の金融政策を批判的に分析する。併せて金融を読み解く力の育成を目指す。

道和 孝治郎 准教授 博士(経済学)

担当 国際金融

科目

著書 「新しい開放マクロ経済学」に基づく金融政策の国際波及効果—ドル建て取引を仮定した日米ANIES3ヶ国モデルによる分析—(一橋大学「経済研究」59-1, 2008) ほか多数

論文

国際金融論の理論モデルを学ぶ。学部上級レベルの内容から始まり、最終的には、近年の最新トピックである「新しい開放マクロ経済学」の内容の修得を目指す。

難波 敏彦 講師 経済学(修士)

担当 ミクロ経済学 ミクロ経済分析

科目

著書 「The Intrinsic Value of Decision Rights and Reciprocity」(Journal of Behavioral Economics and Finance 共著)「The Weak Relationship Between Uncertainty and Incentives in Linear Contracts」(RISS Discussion Paper Series 単著)

論文

ゲーム理論、契約理論を用いた理論分析を中心に、実験室での経済実験、コンピュータを用いたシミュレーション分析を併用し、社会的に望ましい雇用契約あり方を提示する。

久下 沼 仁筒 教授 経済学修士

担当 公共経済学 公共政策論 公共経済学演習

科目

著書 「ポスト福祉国家の総合政策」(ミネルヴァ書房)
「制度の経済学」(中央大学出版) ほか多数

論文

政府による市場経済への介入がもたらす経済効果について、政府内部での政策決定に関する政治過程にも焦点を当て分析する。また現代日本の具体的な政策課題への政府の対応の在り方を検討する。

村井 淳一 教授 修士(法学)

担当 租税法演習 租税法総論 租税手続法

科目

著書 「税務訴訟と要件事実論」(共著:清文社)
「中小企業の会計に関する指針ガイドブック」(共著:清文社) ほか多数

論文

すべての経済活動は税負担に影響を与える。税法の基礎理論を前提とつ、「税目」ごとの知識にとどまらず断片的な理解に主眼を置いて、現実の経済活動に税法を的確に当てはめるための理論的な思考力を身につけられるよう、院生の皆さんとともに議論し、研究していきたいと思う。

清水 裕子 准教授 博士(経営管理)

担当 経済政策論 比較経済政策論

科目

著書 「The Locavore's Dilemma」(Public Affairs, 2012(共著))
「Blowing Hot Air on the Wrong Target?」(Frontier Center for Public Policy, 2016(共著)) ほか多数

論文

グローバル化が進む中での国際貿易・経済の発展とその効果と影響について、学際的に実例を踏まえながら学んでいきます。

李 立栄 准教授 博士(学術)

担当 国際経済学

科目

著書 「資本市場の変貌と証券ビジネス」『変貌する金融と証券業』(ともに共著:日本証券経済研究所)、「パーソナルファイナンス研究の新しい地平」(共著:文眞堂) ほか多数

論文

国際貿易、国際マクロ経済学に関する理論モデルを学習するとともに、現実直面する諸問題の実証分析の方法を身に付ける。修士論文を論理的に書くことを目標とする。

石原 卓典 講師 修士(経済学)

担当 時系列データ分析 時系列モデル

科目

著書 「行動経済学の現在と未来」(共著:日本評論社)
「情報提供が表明選好に与える影響:自由化前の電力料金選択のフィールド実験」(経済論叢 194巻 3号)

論文

計量経済学を用いた実証分析に興味のある受講生を対象としています。計量経済学の基本的な知識の確認・習得からはじめ、時系列解析やパネルデータ分析といった応用的なトピックについて扱います。

税理士養成コース

京都太秦キャンパス

Common Program for Attaining Certified Public Tax Accountancy(CPTA)Status

経済学研究科プログラム

CONCEPT

研究科コンセプト

経済、法務、会計の各領域にわたる知識と実務能力を備えた専門的職業人を育成します。

税理士は、税務の専門家として企業が税務署に提出する申告書の作成を代行するだけでなく、決算書類の作成や会計帳簿の記帳代行などの会計業務、そして経営指導業務も担っています。さらに税理士は近年、民間企業の会計参与や地方公共団体の外部監査人としても認定され、より幅広い職域で活躍できるようになりました。したがって、こうした税理士に期待される職務遂行のためには、これまで以上に幅広い専門的な知識が不可欠であることはもちろん、公正で透明な税務行政に貢献できるような高い職業倫理意識を持つことが要請されています。本学大学院の税理士養成コースは、このような時代的要請に応え、税務・会計領域における専門的職業人の育成をめざしています。



めざすキャリア

中小企業における経営支援の担い手

税理士

民間企業・公務員における法務・会計の担い手

- 企業内税理士
- 国税専門官

※ 学位取得による税理士試験の科目免除制度について

本学大学院を修了し、修士論文を国税庁・国税審議会に提出して審査に通れば税理士試験の一部科目の試験免除を受けることができます。

研究科	修士論文の内容	得られる学位	試験免除の内容
経済学研究科	税法に関する論文	修士(経済学)	税法2科目免除

税理士養成コースは、経済学研究科のプログラムであり、大学院生は、希望する演習担当者に所属することになります。演習指導と必修科目は各研究科の規定に

従いますが、次の各分野の履修科目はすべて「所属研究科の修了に必要な単位」として認定されます。なお、担当者については各研究科のページをご参照ください。

所属する研究科での論文指導
(演習科目および必修科目)



経済学 分野	<input type="checkbox"/> 租税論	法学分野	<input type="checkbox"/> 租税法総論
	<input type="checkbox"/> 公共経済学		<input type="checkbox"/> 所得税法
	<input type="checkbox"/> 租税制度論		<input type="checkbox"/> 法人税法
	<input type="checkbox"/> 経済政策論		<input type="checkbox"/> 租税手続法
	<input type="checkbox"/> 財政学		<input type="checkbox"/> 租税争訟法
	<input type="checkbox"/> 社会政策論		<input type="checkbox"/> 法情報処理
	<input type="checkbox"/> 金融経済論		<input type="checkbox"/> 経済法
	<input type="checkbox"/> 新会計基準と法人税		
	<input type="checkbox"/> 税務会計実務		
	など		など

年度により開講科目が変更されることがあります。



各研究科固有の自由選択科目



工学研究科

京都太秦キャンパス

Graduate School of Engineering Division of Mechanical and Electrical System Engineering

機械電気システム工学専攻 博士課程前期／博士課程後期

CONCEPT

研究科コンセプト

キーワードは“創造”。複数分野を統合するアプローチで、「新たな技術や学問を創り出せる人材」を育成する大学院。

新しい概念を“創造”することによって次世代の産業の創出と新たな価値の創出に貢献できる高度な専門知識を有した技術者・研究者を育成します。

グローバルに活躍する国際色あふれる教員陣が最先端の研究設備を揃えた研究環境でORT (On the Research Training) を実施します。また、工学研究科では海外からの留学生の受け入れを積極的に行い、グローバルな環境での学修、研究やコミュニケーションの機会が生まれます (留学生は9月入学)

博士課程 前期

養成する人物像 機械電気システム工学分野を構成する材料、エネルギー、情報、システムのいずれかの領域を中心として、次世代の機械電気システムに必須の専門領域の高度な知識を他領域の知識と関連づけながら修得させることによって次世代の産業の創出と新たな価値の創出に貢献できる専門技術者及び高度専門技術者を養成します。

博士課程 後期

養成する人物像 機械電気システム工学分野を構成する材料、エネルギー、情報、システムの4領域のうち専門とする1領域を深く学修し、同時に関連する3領域の知識も深化させることで、それぞれの高度な専門的知識に加え、領域横断的な総合領域において高度な専門的知識を深化させ、多様な学問分野の動向と社会ニーズを踏まえた社会的ニーズの高い問題発見能力を有し、新しい概念を“創造”することによって次世代の産業の創出と新たな価値の創出に貢献できる研究者を養成します。

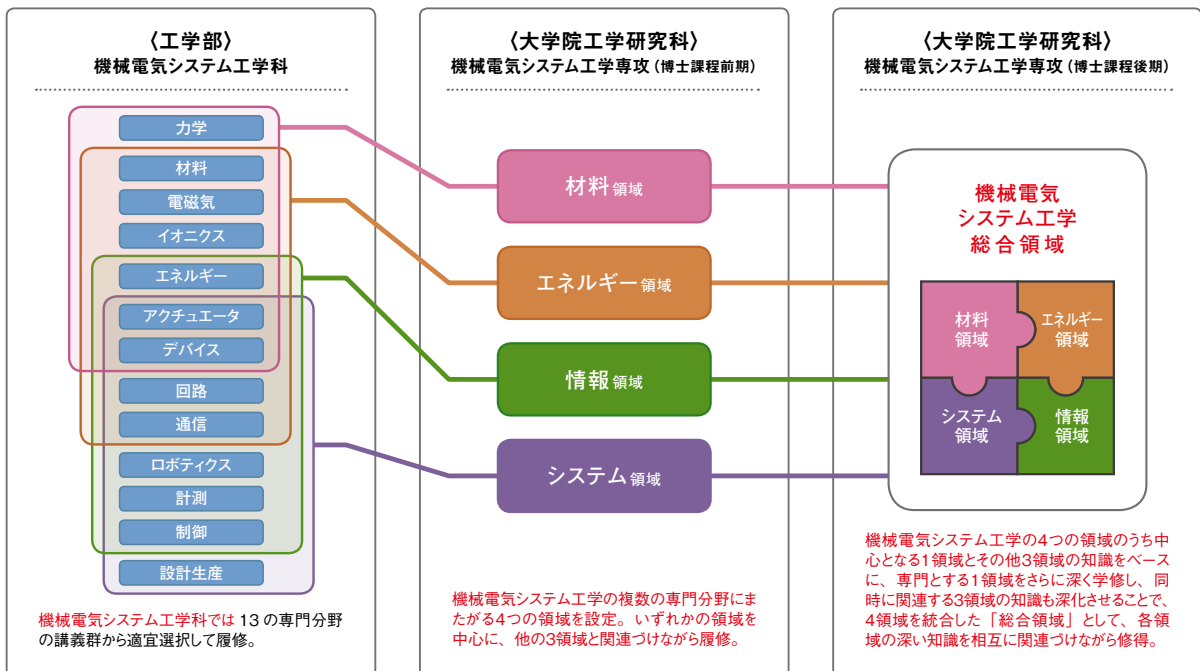
めざすキャリア

- メーカーの設計・生産・開発・品質管理の各部門の高度専門技術者
- 研究者

めざすキャリア

- メーカーにおける研究開発者
- 大学および高等研究機関における研究者

「工学部」と「大学院工学研究科(博士課程前期・後期)」の関係説明図



次世代の電気機械システムに必須の高度な専門知識を修得し、新しい発想で産業にイノベーションをもたらして新たな価値を生み出すことができる高度専門技術者・研究者の育成をめざします。

カリキュラムマップ(博士課程前期)

		教育課程			
セメスタ		1	2	3	4
語学科目	科学技術英語	科学技術英語I	科学技術英語II		
	専門科目(基幹)	先端機械電気システム工学通論 エレクトロニクス材料の物理と化学	先端機械電気システム工学通論 MEMS 技術と材料 風力発電テクノロジー		
専門科目(発展)	材料			計算材料科学特論	
	エネルギー			半導体電力変換技術	半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計
	情報	大学院エンジニアのためのコンピュータ数学			スクリプト言語と仮想マシン
	システム	ロボティクス特論		システム設計論	リモートセンシング
研究分野	特別演習	特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV
	特別研究	特別研究I	特別研究II	特別研究III	特別研究IV



専門科目(基幹)と語学科目は1年生、専門科目(発展)は2年生で履修します。
 研究分野関係科目は主研究指導教員と副研究指導教員(複数)という研究指導体制をとり、2年間を通じて各自の研究テーマに応じた十分な研究指導を行います。

カリキュラムマップ(博士課程後期)

		教育課程					
セメスタ		1	2	3	4	5	6
語学科目	科学技術英語			科学技術英語III		科学技術英語IV	
	専門科目	エレクトロニクス材料の物理と化学 計算材料科学特論	MEMS 技術と材料	機械電気システム工学特論(材料)			
専門科目	エネルギー	半導体電力変換技術	風力発電テクノロジー 半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計	機械電気システム工学特論(エネルギー)			
	情報	大学院エンジニアのためのコンピュータ数学	スクリプト言語と仮想マシン		機械電気システム工学特論(情報)		
	システム	システム設計論 ロボティクス特論	リモートセンシング		機械電気システム工学特論(システム)		
	研究分野	特別演習	特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV	特別演習V
研究分野	特別研究	特別研究I	特別研究II	特別研究III	特別研究IV	特別研究V	特別研究VI

専門科目は博士課程前期の科目に加え、機械電気システム工学特論(材料・エネルギー・情報・システム)の4科目を開講します。
 研究分野関係科目は主研究指導教員と副研究指導教員(複数)という研究指導体制をとり、3年間を通じて各自の研究テーマに応じた十分な研究指導ができるようにするとともに、主研究指導教員の所属する領域以外の3領域の教員を交えて発表及び討議を行います。

ADMISSION POLICY

以下の要件を満たし、本学大学院で学び、新しい未来を切り開く熱意のある方の応募をお待ちしています。

■博士課程前期

1. グローバルな視点で社会の未来に繋がる課題の解決に意欲をもって携わりたい者。
2. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野の基礎的な知識を有している者。
3. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野に科学的・学術的な観点からアプローチし、専門性を深めて課題に挑戦する意欲を有する者。

TEACHING STAFF

田畑 修 教授 博士(工学)

担当 先端機械電気システム工学通論 MEMS 技術と材料
 科目 機械電気システム工学特論(情報) 特別演習I~VI
 特別研究I~VI

著書 センサ、3次元微細加工、薄膜材料機械的物性評価、微小生体模倣システム、DNA ナノテクノロジーなどの分野における英語論文170編、国際学会発表300件、国内口頭発表200件以上。IEEE フェロー、電気学会フェロー。

論文 「小さな機械が創る大きな機械」をスローガンにして、ミリメートルからナノメートルの大きさの構造と機械・電気・化学・光・バイオなどの機能を統合して新しい機械電気システムをつくりだす研究に取り組んでいる。

今井 欽之 教授 博士(工学)

担当 特別演習I~VI 特別研究I~VI

科目 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 [著書]久保田 他 (共著) ホログラム最新技術～感光材料の開発から実製品への応用まで～、情報機構、(2006). [論文] T. Imai et al, "Fast response varifocal lenses using KTa1-xNbxO3 crystals and a simulation method with electrostrictive calculations," *Apl. Opt.*, vol. 51, no. 10, pp. 1532-1539, (2012). など

論文 専門は単結晶を材料とした光制御デバイス、ホログラフィー。単結晶の育成から取り組んでおり、近年は非常に強い電気光学効果を持つ単結晶を用いた、光線を高速に曲げる(走査する)デバイスの開発とその装置応用に重心を置いている。

堀井 滋 教授 博士(工学)

担当 エレクトロニクス材料の物理と化学
 科目 機械電気システム工学特論(材料) 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 「実用的3次元結晶配向法としての回転変調磁場配向への取り組みの現状」、粉体および粉末冶金 67 (2020) 213. [現代界面コロイド化学の基礎(第4版)] (2019) (分担執筆)

論文 主に酸化物材料を対象に、磁場配向プロセス開発や材料化に向けた物質設計指針の構築に関わる実験的研究を、電氣的・磁氣的・結晶構造の観点から進めています。

生津 資大 教授 博士(工学)

担当 MEMS 技術と材料 特別演習I~VI 特別研究I~VI

科目 MEMS 技術と材料 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 "Strength of Carbon Nanotubes Depends on Their Chemical Structures", *Nature Communications* (2019) ほか 300 件以上

論文 ナノテクノロジーを駆使した独創的な材料研究を推進しています。独自の実験技術を駆使して肉眼で見えない物に触れたり加工したり強度を測ったりして、ナノ～原子サイズの材料の振る舞いを明らかにしていきます。

川上 浩司 教授 博士(工学)

担当 システム設計論 特別演習I~VI 特別研究I~VI

科目 システム設計論 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 不便から生まれるデザイン(化学同人、2011)、不利益という発想(インプレス、2017)、不利益(近代科学社、2017)、アーティファクトデザイン(共立出版、2018)、不利益のススメ(岩波、2019)、他多数

論文 システムデザイン論。人工的にシステム(モノやコト)をデザインする(創り出す)ときの指針を探索する。人とシステムが環境を含めて「共生」する状態にするための指針として「不利益」の実現を握る。

沖 一雄 教授 博士(都市・地域計画学)

担当 リモートセンシング 特別演習I~VI 特別研究I~VI

科目 リモートセンシング 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 K. Oki, Noda, K., Yoshida, K., Azechi, I., Maki M., Honma, K., Hongo C. and Shirakawa, H., Development of an Environmentally Advanced Basin Model in Asia, [Crop production] (Aakash Goyal, ed.), INTECH. 17-48 (2013) DOI:10.5772/54926

論文 [論文] K. Oki, H.Oguma, and M. Sugita, Subpixel Classification of Alder Trees using Multitemporal Landsat Thematic Mapper Imagery, *PE&RS*, Vol.68, No.1, pp77-82 (2002).

論文 ドローンや人工衛星などのリモートセンシング技術によって観測されたビッグデータから付加価値情報を抽出するための手法開発をおこなっている。また、他分野との連携によるイノベーション創出に興味がある。

福島 宏明 教授 博士(情報学)

担当 ロボティクス特論 機械電気システム工学特論(システム) 特別演習I~VI 特別研究I~VI

科目 ロボティクス特論 機械電気システム工学特論(システム) 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 [論文] Leader-Follower Navigation in Obstacle Environments While Preserving Connectivity Without Data Transmission, *IEEE Transactions on Control Systems Technology*, Vol. 26, No. 4, 2018. ほか。

論文 群ロボットシステムやヘビ型ロボットなどの複雑で自由度の高いダイナミクスもつシステムを対象とし、環境の変化にも柔軟に対応できる制御手法の構築を目指して研究に取り組んでいる。

西 正之 准教授 博士(工学)

担当 エレクトロニクス材料の物理と化学
 科目 エレクトロニクス材料の物理と化学 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 [論文] "Nanoscale Raman imaging with nanogold-topped AFM probes fabricated by area-selective electroless deposition," *J. Electrochem. Soc.*, 165, D711 (2018); "Focused-ion-beam-enabled electroless growth of gold nanoparticles on silicon," *J. Ceram. Soc. Jpn.*, 126, 614 (2018).

論文 個々のナノ材料、あるいはもっと大きな材料のナノ領域がどのような物質・化学結合状態からなっているのか、そしてそれらが空間的にどのように分布しているのかを知るための顕微分光法に関わる探針をオリジナルの技術をベースに作製しています。

イアン ピ ュ マ ー タ Ph.D. in Computer Science(イギリス)
Ian PIUMARTA 教授

担当 大学院エンジニアのためのコンピュータ数学
 科目 スクリプト言語と仮想マシン 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 Ian Piumarta. *Open, extensible composition models*. In Proceedings of the 1st Workshop on Free Composition (FREECO) 2011

論文 Configurable and meta-programmable systems that observe and analyse themselves or modify their own implementations.

中村 康一 教授 博士(工学)

担当 計算材料科学特論※ 特別演習I~VI 特別研究I~VI

科目 計算材料科学特論※ 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 [論文] First-principles simulation on thermoelectric properties of transition metal dichalcogenide monolayers, *Jpn. J. Appl. Phys.* 57, 06HE04 (2018). ほか多数

論文 量子化学的・量子物理学的手法に基づく材料物性(熱電変換特性、電気機械特性など)や材料反応に関する理論的研究とシミュレーションのほか、相対論的電子状態理論を用いた材料系の応用計算を行っている。

アルベルト カステラッツィ Ph.D. in Electrical Engineering(ドイツ)
Alberto CASTELLAZZI 教授

担当 半導体電力変換技術
 科目 半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 A. Castellazzi, E. Gurpinar, Z. Wang, A. S. Hussein, P. Garcia Fernandez, *Impact of Wide-Bandgap Technology on Renewable Energy and Smart-Grid Power Conversion Applications Including Storage*, *Energies* 2019, 12(23), 4462; <https://doi.org/10.3390/en12234462> (Invited - Feature paper)

論文 Wide-bandgap (WBG) semiconductor devices are making their way pivotal domains of societal infrastructure such as sustainable energy generation and conversion. Experience has highlighted a number of gains that can be drawn from this technology even when used as a straightforward drop-in substitute of silicon in established applications. Incremental in nature, these gains enable interesting progress beyond state-of-the-art. With particular reference to renewable energy power conversion and solid-state transformation, in the context of transport applications and incorporating a storage device, this paper reports on the understanding generated over the past years and points out some specific technology and circuit design requirements to ensure overall beneficial impact of the adoption of WBG technology.

西 正之 准教授 博士(工学)

担当 エレクトロニクス材料の物理と化学
 科目 エレクトロニクス材料の物理と化学 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 [論文] "Nanoscale Raman imaging with nanogold-topped AFM probes fabricated by area-selective electroless deposition," *J. Electrochem. Soc.*, 165, D711 (2018); "Focused-ion-beam-enabled electroless growth of gold nanoparticles on silicon," *J. Ceram. Soc. Jpn.*, 126, 614 (2018).

論文 個々のナノ材料、あるいはもっと大きな材料のナノ領域がどのような物質・化学結合状態からなっているのか、そしてそれらが空間的にどのように分布しているのかを知るための顕微分光法に関わる探針をオリジナルの技術をベースに作製しています。

■博士課程後期

1. グローバルな視点で社会の未来に繋がる課題の解決に意欲をもって携わりたい者。
2. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野の専門的な知識を有する修士またはそれと同等の学力を持つ社会人。
3. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野に科学的・学術的な観点からアプローチし、専門性を深めて、複雑で複合的な問題に挑戦する意欲を有する者。

教員紹介

松本 龍介 准教授 博士(工学)

担当 計算材料科学特論※ 特別演習I~VI 特別研究I~VI

科目 計算材料科学特論※ 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 【著書】"Atomistic Simulations of Hydrogen Effects on Lattice Defects in Alpha Iron", *Handbook of Mechanics of Materials*, Chapter 10, Springer, 2019.

論文 【論文】英文誌を中心に60編超執筆

金属材料の変形と破壊機構や、強度信頼性評価に関する研究を行っている。特に電子・原子レベルのシミュレーション手法を用いて、水素環境での材料強度の劣化(水素脆化)機構の解明に取り組んでいる。

岸田 逸平 准教授 博士(工学)

担当 エレクトロニクス材料の物理と化学

科目 計算材料科学特論※ 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 The graph-theoretic minimum energy path problem for ionic conduction, *AIP Advances*, 5 (10), p. 107107 (2015).

論文 「誰かが電池を改善してくれたらいいなあ」とぼんやり眺めて過ごすよりも、自分がその電池を改善して社会に貢献する。そんなことを夢見て、私は主に電池材料の研究を理論計算を用いて進めている。

高橋 亮 准教授 博士(理学)

担当 半導体電力変換技術
機械電気システム工学特論(エネルギー)

科目 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 Ryo Takahashi, Keiji Tashiro and Takashi Hikiyama, "Router for Power Packet Distribution Network: Design and Experimental Verification", *IEEE Transactions on Smart Grid*, vol. 6, no. 2, pp. 618-626, March 2015.

論文 電力ルーティングシステムなど、情報通信システムおよび電気システムを横断し、両システムを連系統合したサイバーフィジカルシステムによる革新的システムおよびその産業応用についての研究を行う。

佐藤 啓宏 講師 博士(工学)

担当 ロボティクス特論 特別演習I~VI 特別研究I~VI

科目 "VR/MRガイドツアーシステムの開発と運用"日本VR学会、19. 2, 247-254, 2014. "タングルトポロジーを用いたロボットハンドによる人間の持ち替え動作の模倣"日本ロボット学会誌、33. 7, 514-523, 2015. 共著等

著書 コンピュータビジョンやVR/MRを使ってアームロボットや車両型ロボットを遠隔制御や自動制御で動かす。最近の興味は、ロボットが自律的に視覚を制御して必要な情報を自動で取得する能動視覚にある。

Fuat KUCUK 講師 Ph.D. in Electrical Machines and Power Electronics (トルコ)

担当 風力発電テクノロジー 特別演習I~VI 特別研究I~VI

科目 F. Kucuk, E. Sunan, "Performance Analysis of an Alnico-Based Permanent Magnet Reluctance Generator for Wind Energy Conversion System", *IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering*, vol.13, no. 9, pp. 1296-1302, 2018.

著書 Wind energy becomes significant source of electricity production in the world. This course provides a thorough introduction to modern wind power generation systems and their control technologies.

Martin SERA 講師 Ph.D. in Mathematics (ドイツ)

担当 特別演習I~VI 特別研究I~VI

科目 Chern classes of singular metrics on vector bundles, joint with R. Lärkäng, H. Raufi & J. Ruppenthal, *Advances in Mathematics* 326 (2018) 465-489

著書 A generalization of Takegoshi's relative vanishing theorem, *Journal of Geometric Analysis* 26 (2016) no. 3, 1891-1912

論文 Modifications of torsion-free coherent analytic sheaves, joint with J. Ruppenthal, *Annales de l'Institut Fourier* 67 (2017) no. 1, 237-265

His research interest is in the field of complex geometry. Using L^2 -theory and coherent sheaves, he analysed the geometry of singular complex spaces. Recently, he studies singular Hermitian metrics on vector bundles.

リャン ジェルー

梁 滋璐 講師 博士(工学)

担当 特別演習I~IV 特別研究I~IV

科目 Liang Z, Ploderer B. (2020) "How does Fitbit measure brainwaves": a qualitative study into the credibility of sleep-tracking technologies. *PACM on Interactive, Mobile, Wearable and Ubiquitous Technologies (IMWUT)* 4(1):Article 17. ほか多数

著書 人をもっと健康的でイキイキと生きるためのウェアラブルコンピューティングと情報処理技術の研究に取り組んでいる。データ解析、人間とコンピュータのインタラクションなど幅広い学際的な研究課題に挑戦している。

A MESSAGE FROM OUR STUDENT

在学生からのメッセージ

学部生時代とは異なり、大学院では研究室を中心とした生活になります。大学の研究室で行われる研究は基礎から応用までさまざまであり、国内はもちろんのこと、世界の活動状況を常に把握しながら最先端の研究に携わることになります。現在、私は生津研究室でカーボンナノチューブの強さを調べる研究を行っており、学部3年生の頃からこの研究に関わってきました。「ナノサイズの材料がどれくらい強いのか?」というナノ材料に対する純粋な興味と「研究を通していろいろな問題に対する解決力を身に付けたい」という思いが大学院進学を決めた主な理由です。また、大学院では研究を通して他大学や企業など外部の人々と関わる機会があります。その中で、自らに課せられた研究=仕事を多くの人と共にゴールまで進める力と、自ら得た成果をプレゼンする力が鍛えられることも、大学院で学ぶ利点だと思います。

木野 智仁 さん

バイオ環境研究科

京都亀岡キャンパス

Graduate School of Bioenvironmental Science

バイオ環境専攻 博士課程前期／博士課程後期

CONCEPT

研究科コンセプト

[博士課程前期(2年)]

バイオ環境を実現するためのリーダーとして活躍できる バイオ環境技術者を養成します。

バイオサイエンス、環境学および食農学を連携させ、人とともに多様な生き物が共生できる環境(バイオ環境)を作り上げることを目標としています。

そのため授業科目は「バイオサイエンス領域」「バイオ環境デザイン領域」「食農領域」の研究分野科目と3分野関連科目が複合的に履修されるように構成されています。

これにより広い視野を持ち「バイオ環境」を実現するためのリーダー(バイオ環境技術者)を養成します。



めざすキャリア

高度なバイオ環境技術者

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> バイオ関連企業 | <input type="checkbox"/> 農業関連企業 |
| <input type="checkbox"/> 環境関連企業 | <input type="checkbox"/> 公務員 |
| <input type="checkbox"/> 食品関連企業 | <input type="checkbox"/> 博士課程後期進学 |

中・高等学校教育の担い手

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 中学校教諭(専修免許状・理科) |
| <input type="checkbox"/> 高等学校教諭(専修免許状・理科) |

[博士課程後期(3年)]

バイオ環境を実現するためのリーダーとして活躍できる より高度なバイオ環境技術者を養成します。

バイオサイエンス、環境学および食農学を連携させ、人とともに多様な生き物が共生できる環境(バイオ環境)を作り上げることを目標とする、バイオ環境研究科の教育理念に基づき、博士課程後期では、3分野の複眼的な研究をさらに進めて「バイオ環境」の新しい研究領域を開拓し、企業の研究所やベンチャー企業でも、即戦力として技術開発や先端的な研究に取り組める、より高度なバイオ環境技術者を養成します。

めざすキャリア

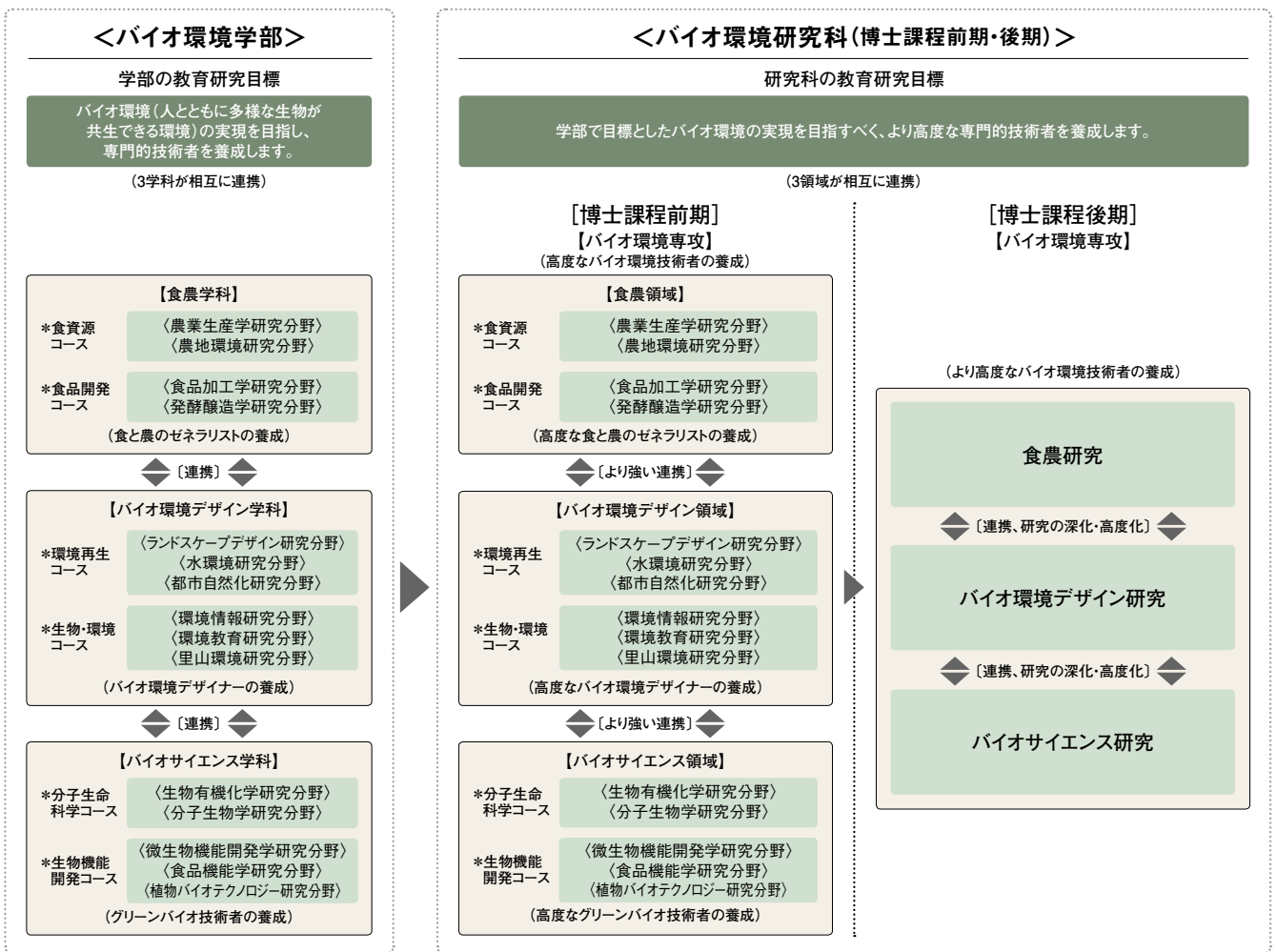
より高度なバイオ環境技術者

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> バイオ関連企業 | <input type="checkbox"/> 農業関連企業 |
| <input type="checkbox"/> 環境関連企業 | <input type="checkbox"/> 公務員 |
| <input type="checkbox"/> 食品関係企業 | |

◎ 社会人の受入 ◎

博士課程後期には社会人も受け入れます。ここで社会人とは、博士課程前期(修士課程)修了者あるいはそれと同等の学力を有する者で、勤務先(所属事業所や企業の長)から同意を得ている者をいいます。社会人としての専業と両立できるように、週末や休暇期間を使った指導を行い、また、日常的には電子メールなどを活用した指導を行います。社会人の経歴を勘案して、試験の一部を免除することがあります。

「バイオ環境学部」と「大学院バイオ環境研究科(博士課程前期・後期)」の関係説明図



CURRICULUM

カリキュラム

■博士課程前期

研究分野 関連科目	【演習科目】 <input type="checkbox"/> 生物有機化学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 分子生物学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 微生物機能開発学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 食品機能学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 植物バイオテクノロジー特別演習I~IV <input type="checkbox"/> ランドスケープデザイン特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 水環境特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 都市自然化特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 環境情報特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 環境教育特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 里山環境特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 農業生産学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 農地環境特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 食品加工学特別演習I~IV <input type="checkbox"/> 発酵醸造学特別演習I~IV	【特別研究】 <input type="checkbox"/> 生物有機化学特別研究 <input type="checkbox"/> 分子生物学特別研究 <input type="checkbox"/> 微生物機能開発学特別研究 <input type="checkbox"/> 食品機能学特別研究 <input type="checkbox"/> 植物バイオテクノロジー特別研究 <input type="checkbox"/> ランドスケープデザイン特別研究 <input type="checkbox"/> 水環境特別研究 <input type="checkbox"/> 都市自然化特別研究 <input type="checkbox"/> 環境情報特別研究 <input type="checkbox"/> 環境教育特別研究 <input type="checkbox"/> 里山環境特別研究 <input type="checkbox"/> 農業生産学特別研究 <input type="checkbox"/> 農地環境特別研究 <input type="checkbox"/> 食品加工学特別研究 <input type="checkbox"/> 発酵醸造学特別研究
	科学英語 【演習科目】 <input type="checkbox"/> 科学英語演習I~II	

専門基礎 科目	<input type="checkbox"/> 分子生命科学特論	<input type="checkbox"/> 生物・環境特論
	<input type="checkbox"/> 生物機能開発特論	<input type="checkbox"/> 食資源特論
	<input type="checkbox"/> 環境再生特論	<input type="checkbox"/> 食品開発特論

関連科目	<input type="checkbox"/> グリーンバイオ最先端技術特論
	<input type="checkbox"/> 環境デザイン最先端技術特論
	<input type="checkbox"/> 食農最先端技術特論
	<input type="checkbox"/> インターンシップ A、B

■博士課程後期

<input type="checkbox"/> バイオ環境特別演習I~VI <input type="checkbox"/> バイオ環境特別研究 ※系統的なカリキュラムを特に設定せず、「特別演習」と「特別研究」を単位化することにとどめ、各自の研究に専念していただきます。
--

年度により開講科目が変更されることがあります。

ADMISSION POLICY

求める人物像

■博士課程前期

1. バイオサイエンスに強い関心を持ち、人類の健康と、快適かつ安全な生活に応用される最先端のバイオ技術やそれを応用する産業に意欲をもって携わりたい学生。
2. 自然と科学に興味をもち、持続可能な地球環境と地域社会を建設していくバイオ環境デザイナーをめざす学生。
3. 農業のあり方や農作物の加工に興味を持ち、これらに科学的な観点からアプローチし、遂行し、農産物を通じて地域の活性化に貢献したい学生。

■博士課程後期

バイオサイエンス研究とバイオ環境デザイン研究および食農研究のより積極的な連携や複眼的研究を更に進めて、「バイオ環境」というコンセプトでの新しい研究領域の模索を行い、新しい環境技術の創成を行おうとする学生。修士またはそれと同等の学力を持つ社会人も受け入れます。

TEACHING STAFF

バイオサイエンスと環境学の各分野をリードする研究者が集結して新しい「バイオ環境学」という新たな学問を創設しました。そこにさらに食農学の研究者も加わり、さらにバイオ環境学を発展させています。経歴面では、京都大学での教

育研究歴の長い教員が多く、また、その他の大学からの教員や、企業や行政で食品、薬品、環境などの分野で活躍した研究者も加わって、幅広い人材がそろっています。

食農領域

農業生産学研究分野

北島 宣 教授 博士(農学)

担当 食資源特論 農業生産学特別演習I~IV 農業生産学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究 食農最先端技術特論

[論文]Hybrid Origins of Citrus Varieties Inferred from DNA Marker Analysis of Nuclear and Organelle Genomes. PLOS ONE 0166969(2016)

カンキツの起源・種分化の解明や種子形成に関する研究および無核性品種の育成を行っている。また、環境負荷を低減する農業生産を目指し、冬期に無暖房で栽培できる高品質トマト新品種の開発を試みている。

佐藤 隆徳 教授 博士(農学)

担当 食資源特論 農業生産学特別演習I~IV 農業生産学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究

[著書][新編 野菜園芸ハンドブック](養賢堂,2001,分担執筆)
 [論文]Development of the Parthenocarpic Eggplant Cultivar 'Anomori'. Japan Agricultural Research Quarterly (JARQ), 43, 123-127 (2009)

地域特産物となり得る高付加価値な野菜の品種育成と特性解明、さらに環境に配慮した持続可能な栽培技術の開発に取り組む。

船附 秀行 教授 博士(農学)

担当 食資源特論 農業生産学特別演習I~IV 農業生産学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究 食農最先端技術特論

[著書][Biotechnology in Agriculture and Forestry Vol.38](Springer,1996, 分担執筆)
 [論文]Molecular basis of a shattering resistance boosting global dissemination of soybean. PNAS, 111:177797-802(2014)

穀類、豆類などの作物の生産性や品質に関連した形質の遺伝解析や特性解明、有用品種育成のための技術開発に取り組む。

農地環境研究分野

藤井 孝夫 教授 修士(農学)

担当 食品開発特論 農地環境特別演習I~IV 農地環境特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究 食農最先端技術特論

[著書][日本茶の魅力求めて](大河書房,2005,共著)
 [論文][京都府における茶樹の生育障害発生原因](京都府立茶業研究所研究報告 第22号 1996)

農作物の品質・収量と土壌管理方法との関係性を明らかにし、環境負荷の少ない生産技術の研究・開発に取り組む。特に、京都の伝統的な農作物である、宇治茶や京野菜を研究対象として研究を行う。

藤井 康代 教授 博士(農学)

担当 食資源特論 農地環境特別演習I~IV農地環境特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[論文][採卵鶏飼料としての竹粉および自家発酵竹粉の有用性] Bamboo J., 29, 29-35 (2015)

タケを含む木質バイオマスについて、化学的手法による材料利用や生理的現象の解明を行うことで資源の有効活用、資源の持続的な供給を伴うバイオ環境の実現を目指している。

坊 安恵 講師

担当 農地環境特別演習I~IV 農地環境特別研究 食資源特論
 科目 生物・環境特論 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究

[論文]坊安恵・中村貴子(2020)「農林漁業体験民宿の開業時における開業者の意向と特徴の分析—規制緩和前と子ども農山漁村交流プロジェクト後を比較して—」『農林業問題研究』56(4):135-142

農林漁村での地域の取組を通して6次産業化や地域活性化を研究しています。

食品加工学研究分野

安達 修二 教授 博士(農学)

担当 食品開発特論 食品加工学特別演習I~IV 食品加工学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究 食農最先端技術特論

[著書]Introduction to Food Manufacturing Engineering (Springer, 2016, 共著)
 [論文]An accelerated method for estimating the dispersion stability of mayonnaise by oil-water separation under reduced pressure. J. Am. Oil Chem. Soc., 95, 1367-1372(2018)

食品の製造過程で生起する現象をプロセス工学および物理化学の観点から定量的に解析することにより、食品を合理的に製造するための基礎科学である食品工学の発展に寄与する。

四日 洋和 講師 博士(工学)

担当 食品開発特論 食品加工学特別演習I~IV 食品加工学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[論文]A simple method for determining the flaxseed or fish oil content in microcapsules prepared by spray drying. Jpn. J. Food Eng.,15(3),131-139(2014)

食品のおいしさ、香り、色、機能性を物理化学的視点から評価解析し、現在社会の多様なニーズに応える高機能食品の開発に貢献する。

発酵醸造学研究分野

井口 博之 准教授 博士(農学)

担当 食品開発特論 発酵醸造学特別演習I~IV 発酵醸造学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[論文]Stress resistance and C1 metabolism involved in plant colonization of a methanotroph *Methylosinus* sp. B4S. Arch. Microbiol.,195,717-726(2013)

植物と共生する微生物の環境適応能力や発酵食品中の微生物の機能について、遺伝子工学・分子生物学技術を用いて研究し、微生物生態の理解と発酵醸造・作物栽培への応用展開を目指している。

バイオサイエンス領域

生物有機化学研究分野

清水 伸泰 教授 博士(農学)

担当 分子生命科学特論 生物有機化学特別演習I~IV 生物有機化学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[論文]Biosynthetic pathway of aliphatic formates via a Baeyer-Villiger oxidation in mechanism present in astigmatid mites. PNAS, 114, 2616-2621 (2017)

土壌動物や昆虫が出すにおいを分析し、その化学構造やどのような行動に関わるのかを明らかにする。体内での生成機構を解明する基礎研究を遂行する一方、より発展的に新しい機能の応用を目指す。

分子生物学研究分野

寶関 淳 准教授 博士(理学)

担当 分子生命科学特論 分子生物学特別演習I~IV 分子生物学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究

[論文]Mitochondrial impairment triggers cytosolic oxidative stress and cell death following proteasome inhibition. Sci Rep.4, 5896(2014)

神経変性疾患をはじめとする様々な疾患発症の原因となる細胞内タンパク質代謝の破綻とレドックス異常が互いにどのように関わっているのかをオルガネラレベルで解析し、その機構を解明する。

微生物機能開発学研究分野

萩下 太郎 教授 博士(農学)

担当 生物機能開発特論 微生物機能開発学特別演習I~IV 微生物機能開発学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究 インターシブ A, B

[論文]Breeding of a cyclic imide-assimilating bacterium, *Pseudomonas putida* s52, for high efficiency production of pyruvate. Biosci. Biotechnol. Biochem.,77,1650-1654 (2013)

独自性の高い産業技術の開発に向けた新規微生物の探索と基礎的・応用的な面から酵素化学的な微生物機能の解明に取り組んでいる。

中田 隆 講師 博士(農学)

担当 分子生命科学特論 生物有機化学特別演習I~IV 生物有機化学特別研究
 科目 グリーンバイオ最先端技術特論 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究

[著書][「インスリン」の視点からみたバイオメティクス,第2編 第5章][「ダイズ」毛茸のハスモン科抵抗性への寄与](2016) シームシー・リサーチ
 [論文]Inducible de novo biosynthesis of isoflavonoids in soybean leaves by *Spodoptera litura* derived elicitors: Tracer techniques aided by high resolution LCMS. J. Chem. Ecol., 42, 1226-1236 (2016)

害虫と作物の「食う-食われる」の関係に注目し、作物が持つ虫害抵抗性のメカニズムを昆虫と植物の相互作用の観点から解明することで、抵抗性の高品質な作物開発への応用・展開を目指している。

奥 公秀 准教授 博士(農学)

担当 分子生命科学特論 分子生物学特別演習I~IV 分子生物学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究 グリーンバイオ最先端技術特論

[著書][オートファジー-分子メカニズムの理解から病態の解明まで] 南山堂 82-89 (2018)
 [論文]Evidence for ESCRT- and clathrin-dependent microautophagy. J. Cell Biol.,216,3263-3274(2017)

細胞レベルでの健康を維持するために、細胞内で物質を分解しリサイクルする仕組み、その中でも特にオートファジーとよばれる機構を、酵母や哺乳類培養細胞を用いて研究している。

櫻岡 晴子 講師 博士(農学)

担当 生物機能開発特論 微生物機能開発学特別演習I~IV 微生物機能開発学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究

[論文]1,3-1,4- α -L-fucosynthase that specifically introduces Lewis a/x antigens into type-1/2 chains. J. Biol. Chem. 287, 16709-16719 (2012)

微生物スクリーニング法により汚染物質の除去に有用な酵素を探索し、タンパク質工学的手法によりその酵素の機能改変を行うことで、それらを活用した環境調和型浄化技術の開発を目指している。

バイオ環境デザイン領域

環境情報研究分野

田中 和博 教授 博士(農学)

担当 環境情報特別演習I~IV 環境情報特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究

[論文] LiDAR Introduces Revolutionary Changes in Its Approach to Forest Management. *J. For. Plan.* 22, 39-46 (2018)

森林に関する各種の環境情報をGIS(地理情報システム)などを用いて解析・評価するとともに、数理モデル等を活用して将来予測をしている。また、それらの結果を基に、森林をゾーニングしている。

ランドスケープデザイン研究分野

丹羽 英之 教授 博士(地球環境学)

担当 環境再生特論 ランドスケープデザイン特別演習I~IV ランドスケープデザイン特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[著書] 景観の生態史観—攪乱が再生する豊かな台地(京都通信社,2012)
 [論文] 流域単位で指標性の高い環境類型区分をつくる場合に適した河川植生データの取得方法、保全生態学研究,16,17-32(2011)

河川を中心に景観生態学的なアプローチで自然環境の保全に資する研究を行っている。

水環境研究分野

高澤 伸江 准教授 博士(理学)

担当 環境再生特論 水環境特別演習I~IV 水環境特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究

[著書] [南極・北極の百科事典]国立極地研究所編(丸善,2004)
 [論文] Kasamatsu, N., S. Kawaguchi, S. Watanabe, T. Odate, and M. Fukuchi, Possible impacts of zooplankton grazing on dimethylsulfide production in the Antarctic Ocean. *Can. J. Fish. Aquat. Sci.*, 61(5), 736-743 (2004)

河川・湖沼・海洋など様々な水環境を対象として、人間活動が水環境に及ぼす影響や、水質変化や気候変化が生物群集に与える影響について研究を行っている。

都市自然化研究分野

原 雄一 教授 博士(地球環境学)

担当 環境再生特論 都市自然化特別演習I~IV 都市自然化特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[著書] [京都を学ぶ(丹波編)](ナカニシヤ出版,2018,共著)
 [論文] 世界主要都市114流域における水害脆弱性指標の開発. *水文・水資源学*,22,10-23(2009)

バイオ環境の課題を解決するためのデザイン手法として、要素間の空間的な位置関係、空間形成の時間的な履歴、事象の相互の関連性、以上の3点を基本的アプローチとする。

里山環境研究分野

鈴木 玲治 教授 博士(地域研究)

担当 生物・環境特論 里山環境特別演習I~IV 里山環境特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[論文] Effect of slash-and-burn on nutrient dynamics during the intercropping period of taungya teak reforestation in the Bago Mountains, Myanmar. *Tropical Agriculture and Development*,53,82-89 (2009)

東南アジアや日本の農山村において、生物資源の持続的利用を可能としてきた在来知に着目し、森林環境学、土壌学、地域情報学の観点から、地域の生態環境に調和した農業や森林利用の将来像を検討。

環境教育研究分野

大西 信弘 教授 博士(理学)

担当 生物・環境特論 環境教育特別演習I~IV 環境教育特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[著書] 保津の漁労「京の筏 コモンズとしての保津川」(ナカニシヤ出版, pp. 63-76, 2016)
 [論文] インドアルナチャール・プラデーシュ州、ウエスト・カメン県およびタワンの鳥類相. *ヒマラヤ学誌*, 17, 113-119 (2016)

アジアの稲作圏の農地生態系は、多様な野生生物の生息環境でもある。アジアの農地生態系に学び、身近な環境で生物多様性と共生を目指す。

伊東 和彦 准教授 博士(理学)

担当 生物・環境特論 環境教育特別演習I~IV 環境教育特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[論文] Simple practical processing of a large single crystal from a large amount of a complete stoichiometric mixture in two-component system. *J. Cryst. Growth*, 271, 398-402(2004)

酸化物の中で特にケイ酸塩を中心とした大型単結晶の合成とその物性の解析を行っている。これらの固体物性の理解はエネルギー環境に配慮した高効率素子の開発を可能にする。

大秦 正揚 講師

担当 環境教育特別演習I~IV 環境教育特別研究
 科目 環境デザイン最先端技術特論 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究

[論文] Host plant choice determined by reproductive interference between closely related butterflies. *The American Naturalist* 196: 512-523. (2020)

昆虫を中心に、生物の環境への適応や繁殖行動の研究を行っている。

食品機能学研究分野

矢野 善久 教授 博士(理学)

担当 生物機能開発特論 食品機能学特別演習I~IV 食品機能学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[著書] [ビタミンE研究の進歩](ビタミンE研究会編,共立出版,1994)
 [論文] LIS1 and NDEL1 coordinate the plus-end-directed transport of cytoplasmic dynein. *EMBO J.*,27,2471-2483 (2008)

食品に含まれる機能成分、特に生活習慣病に対し予防や改善効果を持つ成分の探索法の開発とその成分の生理機能解析。

植物バイオテクノロジー研究分野

高瀬 尚文 教授 博士(理学)

担当 生物機能開発特論 植物バイオテクノロジー特別演習I~IV 植物バイオテクノロジー特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[論文] The improvement and enhancement of phyto-ingredients using new technology of genetic recombination. In *Biotechnology in Functional Foods and Nutraceuticals*. Eds.D.Bagchi,F.C.Lau,D.K.Ghosh,CRC Press,pp157-180 (2010)

有限な地球における人類の活動と生存の持続を目的に、物質循環の流れを踏まえ、植物の機能を巧みに利用したバイオテクノロジーの研究開発に取り組んでいる。

藤田 裕之 教授 博士(農学)

担当 生物機能開発特論 食品機能学特別演習I~IV 食品機能学特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~IV バイオ環境特別研究

[著書] Marine nutraceuticals and functional foods, CRC press(2008)
 [論文] Efficacy and safety chinese black tea (Pu-Erh) extract in healthy and hypercholesterolemic subjects. *Ann. Nutr. Metab.*, 53, 33-42 (2008)

食品中には、未知の体調節機能を持つ物質が多く存在している。その中でも特にメタボリックシンドロームを中心に改善作用を示す食品を探索し、その活性成分の単離・構造決定、さらには構造活性相関にも取り組む。

Prieto Rafael 准教授 博士(理学)

担当 生物機能開発特論 植物バイオテクノロジー特別演習I~IV 植物バイオテクノロジー特別研究
 科目 バイオ環境特別演習I~VI バイオ環境特別研究

[論文] The *axhs1/dwf4* auxin-hypersensitive mutant of *Arabidopsis thaliana* defines a link for integration of auxin and brassinosteroid mediated root elongation. *Plant Biotech.*, 32, 125-137 (2015)

植物における環境ストレスへの適応、ファイトレメディエーション、栄養代謝、オーキシシンやブラシノステロイドなどの植物ホルモンの調節機構などについて研究する。

人間文化研究科

京都太秦キャンパス

Graduate School of Humanities and Social Sciences

人間文化専攻 修士課程

CONCEPT

研究科コンセプト

文化・社会・人間の心を複眼的に追究。 高度な専門職業人の養成をめざします。

人々の価値観が揺らぎ、人間関係を形成する社会システムも人間の心の中も、従来の価値体系では解決策を見いだせない現代。人間の生き方、社会システムの在り方、文化の機能を多角的に解明する学問の構築が求められています。人間文化研究科は、「文化研究」「社会情報」「心理学」の3つの教育研究領域を有機的に連関させ、高度な専門職業人の養成を追究。臨床心理学コースは、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院で、国家資格である「公認心理師」の受験資格も取得することができます。さらに、中学校教諭(社会)、高等学校教諭(地理歴史)の専修免許状が取得できます。



〈文化研究領域〉

日本とアジアを中心とした文化遺産と文化的伝統、人々の生活の中で作用している文化の機能の諸相と特質を、文化、地理、歴史、思想、言語、文学等の側面から探究する。

文化
Culture

社会
Society



人間の心
Mind

〈社会情報領域〉

各種メディアにおいて情報技術が発達するとともに大きく変動しつつある現代社会と文化の動向を探り、そこに生じる新たな社会的諸問題を理論的・実践的に研究する。

〈心理学領域〉

家庭・学校・地域社会などにおける実際の課題を発見し解決する人材を育成する「心理学コース」と、心の健康に関わる援助者としての心構えと知識、そして技能を備えた専門家を育成する「臨床心理学コース」の2つがある。人間の心の機能とその形成過程を解明する。

臨床心理士と公認心理師の受験資格を取得できる「臨床心理学コース」

対人援助や心理カウンセリングの分野で活躍するには、臨床心理士や公認心理師は欠かせない資格です。臨床心理学コースは、日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院。本コースを修了することによって、臨床心理士資格試験の受験資格を取得することができます。臨床心理士や公認心理師の資格があれば、医療・教育・福祉・司法・産業などの分野で幅広く仕事をすることができます。

中・高等学校教育の担い手

- 中学校教諭(専修免許状/社会)
- 高等学校教諭(専修免許状/地理歴史)

人々の精神的健康の担い手

- 臨床心理士
- 公認心理師

CURRICULUM

カリキュラム

日本・アジアの文化と歴史を中心に研究する「文化研究コース」、現代の社会問題や情報メディアを研究する「社会情報コース」、認知・学習・発達・社会など心理学の各分野を研究する「心理学コース」、臨床心理士や公認心理師の受

験資格の取得をめざす「臨床心理学コース」(日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院)の4コースを設定。多様な領域の研究者が本科を構成し、複眼的な研究ができる環境を作っています。

文化研究コース

- 人間文化基礎特論
- 日本歴史文化特論
- 日本言語文化特論
- 日本古典文学特論
- 文化人類学特論
- 英語言語学特論

【演習科目】

- 日本歴史文化研究演習
- 日本言語文化研究演習
- 日本古典文学研究演習
- 文化人類学研究演習

その他選択科目多数

社会情報コース

- 人間文化基礎特論
- 政治社会学特論
- ジェンダー社会学特論
- 理論社会学特論
- コミュニケーション社会学特論
- マルチメディア特論
- 広告広報特論
- 環境社会特論

【演習科目】

- 社会学研究演習
- コミュニケーション社会学研究演習
- 広告広報研究演習

その他選択科目多数

心理学コース

- 人間文化基礎特論
- 心理学研究法特論
- 認知心理学特論
- 発達心理学特論
(福祉分野に関する理論と支援の展開)
- 社会心理学特論
- 集団心理学特論
- 障害児心理学特論
(福祉分野に関する理論と支援の展開)
- 実験心理学特論
- 計量心理学特論
- 産業・労働分野に関する理論と支援の展開

【演習科目】

- 心理学研究演習

その他選択科目多数

臨床心理学コース

- 人間文化基礎特論
- 臨床心理学特論
- 臨床心理面接特論
(心理支援に関する理論と実践)
- 臨床心理基礎実習
- 臨床心理実習
(心理実践実習)
- 心理学研究法特論
- 認知心理学特論
- 発達心理学特論
(福祉分野に関する理論と支援の展開)
- 社会心理学特論
- 障害児心理学特論
(福祉分野に関する理論と支援の展開)
- 精神医学特論
(保健医療分野に関する理論と支援の展開)
- 心理療法特論
- 臨床心理関連行政論
- 心身医学特論
- 臨床心理学研究法特論

- コミュニティ・アプローチ特論
(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)
- 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
- 産業・労働分野に関する理論と支援の展開
- 心の健康教育に関する理論と実践

【演習科目】

- 臨床心理査定演習
(心理的アセスメントに関する理論と実践)
- 臨床心理学研究演習

その他選択科目多数

年度により開講科目が変更されることがあります。

ADMISSION POLICY

求める人物像

本研究科は、本研究科修士課程の履修に必要とされる基礎的な能力を有し、なおかつ次のような資質を備えた人を求める。

文化研究コースでは、日本の文化遺産と文化的伝統、人々の生活の中で作用している文化の態様とその特質を地理、思想、歴史、言語、文学等の側面から教育研究したい者。

社会情報コースでは、各種メディアによる情報伝達技術に関心を持ち、現代の社会と文化に関する幅広い興味を有し、そこに生じる社会的諸問題の解決に寄与する能力を身につけたいと考えている者。

心理学コースでは、人間として基本的な心理と行動を対象として教育研究したい者。

臨床心理学コースでは、人間の心に関する深い理解を基礎にして、臨床心理学を専門的に修得し、心の健康に関わる援助者としての心構えと知識・技能を兼ね備えた心の専門家を目指す者。

TEACHING STAFF

日本とアジアの文化と歴史、社会学、マスメディア論、心理学、臨床心理学など、多様な領域の研究者が一つの研究科を構成し、複眼的な研究ができる環境を作っています。経歴面では、アカデミックな経歴の長い者から、新聞社や病院な

どでの勤務経験が長く現場を熟知した研究者までが揃い、多様な研究アプローチが用いられています。

心理学コース

有馬 淑子 教授 博士(人間科学)

担当 心理学研究演習 社会心理学特論 集団心理学特論
科目 産業・労働分野に関する理論と支援の展開

著書 『集団と集合知の心理学』(ナカニシヤ出版)
論文 『極端化する社会』(北大路書房) ほか多数

社会心理学の文献を読み、各自の問題意識に応じたテーマを設定して、修士論文を作成する。データ解析、テキスト分析などの実習を通じて、社会に応用可能な知識と技術を習得できるよう指導する。

行廣 隆次 教授 教育学修士

担当 心理学研究演習 心理学研究法特論 計量心理学特論
科目 実験心理学特論

著書 『コネクション・モデルと心理学-脳のシミュレーションによる心の理解-』(北大路書房) 『ワーキングメモリ内の処理と貯蔵のトレードオフ-数の処理と空間処理を用いた検討-』(『人間文化研究』) ほか多数

認知心理学や計量心理学分野から研究テーマを選び、先行研究を踏まえて実証的な研究を行い、修士論文を作成する。

神原 歩 准教授 博士(心理学)

担当 認知心理学特論
科目 認知心理学特論

著書 『読んでわかる社会心理学(ライブラリ読んでわかる心理学10)』(共著、サイエンス社) 『態度が相反する他者への過度なバイアス認知を錯視経験が緩和する効果』(『心理学研究』) ほか多数

池田 慎之介 講師 修士(教育学)

担当 人間文化基礎特論 発達心理学特論
科目 人間文化基礎特論 発達心理学特論

著書 『幼児期から児童期の子どもにおける発語からの感情判断の発達』(心理学研究)、『感情の経験と知覚における言語の役割-理論的整理と発達の検討-』(心理学評論)ほか

臨床心理学コース

山 愛美 教授 博士(教育学) 臨床心理士

担当 臨床心理学研究演習 臨床心理面接特論
科目 臨床心理実習

著書 『言葉の深みへ』(誠信書房)、『黒の創造 香月泰男』(遠見書房)、『村上春樹、方法としての小説』(新曜社)他、日本人の精神性や文化に関する英文の論文も多数。

国内外の学術論文や著書などの文献を講読し、研究テーマを決定。各自の研究内容に即して、研究の目的、研究領域における位置付けを明らかにし、幅を広げる。

田中 史子 教授 教育学修士 臨床心理士 公認心理師

担当 臨床心理実習 臨床心理学研究演習
科目 臨床心理基礎実習 心理実践実習

著書 『物語(tale)の臨床心理学』(創元社)
論文 『矛盾、曖昧さ、荒唐無稽さを含んだ物語について』、『Lévy-Bruhlの「原始神話学」と臨床心理学的視点』など

修士論文作成においては、大学院生自身の関心にしたがい、心理臨床の実践につながる研究テーマを選択し、そのテーマの追求を通して心理臨床家としての姿勢を学べるよう指導している。

伊原 千晶 准教授 教育学修士 臨床心理士 公認心理師

担当 臨床心理基礎実習 臨床心理学特論
科目 臨床心理基礎実習 臨床心理学特論

著書 『生命と魂-心身論の観点から』、『臨床心理学とコミュニケーション』、『心理臨床の法と倫理』 ほか多数

飯野 秀子 准教授 教育学修士 臨床心理士 公認心理師

担当 臨床心理基礎実習 臨床心理実習
科目 臨床心理基礎実習 臨床心理実習

著書 『ロールシャッハ法における、査定者の臨床イメージ体験のあり方と機能』、『絵画表現の歴史から見たロールシャッハ法の陰影反応』 ほか多数

上松 幸一 准教授 教育学修士 臨床心理士 公認心理師

担当 臨床心理査定演習 コミュニティ・アプローチ特論
科目 臨床心理実習 臨床心理関係行政論 学校臨床心理学特論

著書 『教育相談 よくわかる!教職エクササイズ-』(共著・ミネルヴァ書房) 『不登校児へのシステム論的視点を介した介入-父子、母子合同箱庭を用いて-』(家族心理学研究)

心理テストの演習や事例検討などを用いて、心理臨床の現場で即戦力として活躍できるよう、指導を行う。
授業では、「自分で考える力」と「助け合う力」が特に重要視される。

小山 智朗 講師 博士(教育学)

担当 臨床心理面接特論 臨床心理実習 心理実践実習
科目 臨床心理面接特論 臨床心理実習 心理実践実習

著書 共著:主体生成プロセスをまなざす観点呈示の試み(創元社) 共著:発達障害をかかえる子どもの母親面接「発達障害」と心理臨床(創元社)



社会情報コース

<p>岡本 裕介 教授 学術修士</p> <p>担当 コミュニケーション社会学研究演習 科目 コミュニケーション社会学特論</p> <p>著書 「コミュニケーション社会学入門」(共著:世界思想社) 論文 「G.H.ミードの行動主義と「I」の他者性」ほか多数</p> <p>コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。さまざまな社会的現象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。</p>	<p>小川 賢治 教授 文学修士</p> <p>担当 社会学研究演習 政治社会学特論 科目 社会学基礎特論</p> <p>著書 「勲章の社会学」(晃洋書房) 論文 「基本的人権と日本社会のモダニティ」ほか多数</p> <p>社会学の古典的な文献を研究することによって社会的な思考法を再確認し、並行して日本社会における民主主義の問題についても考える。</p>	<p>君塚 洋一 教授 文学修士</p> <p>担当 広告広報研究演習 広告広報特論 科目 広告広報研究演習 広告広報特論</p> <p>著書 「選曲の社会史——「洋楽かぶれ」の系譜」(日本評論社) 論文 「文化としてのテレビ・コマーシャル」(共著:世界思想社) 論文 「イメージ編集」(共著:武蔵野美術大学出版局)ほか多数</p> <p>メディア論、広告広報、ブランド、地域づくり、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。文献研究やサーベイとあわせ、メディアや地域の現場とのネットワークを活かした指導を行う。</p>
<p>内藤 登世一 教授 Ph.D.(環境・資源経済学)</p> <p>担当 環境社会特論 科目 環境社会特論</p> <p>著書 「Mangrove Ecosystem in Asia: Current Status, Challenges and Management Springer」(共著) 論文 「Assessment of Japanese Recycling Policies for Home Electric Appliance: Cost-effectiveness Analysis and Socioeconomic and Technological Implications.」<i>Environmental Development</i> ほか多数</p>	<p>佐藤 嘉倫 教授 博士(文学)</p> <p>担当 人間文化基礎特論 社会学研究演習 科目 人間文化基礎特論</p> <p>著書 「ソーシャル・キャピタルと社会」(ミネルヴァ書房) 論文 「社会理論の再興」(ミネルヴァ書房)など</p> <p>参加者一人一人の研究関心に沿った指導をして、優れた修士論文執筆につなげる。</p>	<p>関口 久雄 准教授 修士(社会学) 修士(学際情報学)</p> <p>担当 マルチメディア特論 科目 マルチメディア特論</p> <p>著書 「インターフェイス～コンピューターと対峙する時」(ひつじ書房) 論文 「メディアのプリコラージュ」(冬弓舎)ほか多数</p>

文化研究コース

<p>乳原 孝 教授 修士(文学)</p> <p>担当 人間文化基礎特論 科目 人間文化基礎特論</p> <p>著書 「エリザベス朝時代の犯罪者たち」(嵯峨野書院) 論文 「「忌情」に対する闘い」(嵯峨野書院)ほか多数</p>	<p>手塚 恵子 教授 文学修士</p> <p>担当 文化人類学研究演習 文化人類学特論 科目 文化人類学研究演習 文化人類学特論</p> <p>著書 「中国広西壮族歌垣調査記録」(大修館書店) 論文 「京の筏 コモンズとしての保津川」(共著:ナカニシヤ出版)ほか多数</p> <p>文化人類学は文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。これらの基本的な文献を学び、その方法論を生かしてフィールドワークを行う。そこで得たデータを分析することを通じて、民族誌もしくは論文を書き上げる。</p>	<p>丸田 博之 教授 博士(文学)</p> <p>担当 日本語文化研究演習 日本語文化特論 科目 日本語文化研究演習 日本語文化特論</p> <p>著書 「近世における「方言書」の見方について」(『近代語研究21』) 論文 「日葡辞書の編者とその周辺」(『国語国文』)ほか多数</p> <p>先行研究を精査しながら、各人がいかなる現象を研究対象とするのかを十分検討した上でテーマを設定し、日本語学の問題点を明らかにすることに全力を注ぐことができるよう指導を行う。</p>
<p>山崎 ふさ子 教授 文学修士</p> <p>担当 日本古典文学研究演習 日本古典文学特論 科目 日本古典文学研究演習 日本古典文学特論</p> <p>著書 「元禄文学の流れ」(共著) 論文 「「夢応の鯉魚」と鯉魚図」(『国語国文』)ほか多数</p> <p>何かひとつの作品、または作家や歌人などに焦点を合わせ、作品の内容や時代背景、先行作品との関係などについてどのように研究が進んできたかを検証する。</p>	<p>山本 淳子 教授 博士(人間・環境学)</p> <p>担当 日本古典文学研究演習 日本古典文学特論 科目 日本古典文学研究演習 日本古典文学特論</p> <p>著書 「紫式部集論」(和泉書院)『紫式部日記と王朝貴族社会』(同)『源氏物語の時代』(朝日新聞出版)『枕草子のたくらみ』(同)ほか多数</p> <p>平安時代の作品を選び、本文批判・考証・表現などの基礎作業を重ねたうえで、自分なりの読みの可能性に取り組む。</p>	<p>鍛冶 宏介 教授 博士(文学)</p> <p>担当 日本歴史文化特論 日本歴史文化研究演習 科目 日本歴史文化特論 日本歴史文化研究演習</p> <p>著書 「海士町村上家文書調査報告書」(海士町) 論文 「読書と読者」(共著、平凡社)ほか多数</p> <p>歴史学の基本である、研究史との格闘、史料の博捜・読解を徹底的に行うことで、新しい歴史像を描き出すための鍛錬を行っている。研究者として、ともに切磋琢磨しましょう。</p>
<p>スティーブン リッチモンド 准教授 修士(応用言語学)</p> <p>担当 英語言語学特論 科目 英語言語学特論</p> <p>著書 「世界をもてなすシンプルな英会話」(学研プラス)「Teaching the Golden Rules of English Conversation」(共著)「The Immediate Method-Task-based Learning in Japanese University Conversation Classrooms」ほか多数</p>	<p>佐々木 政文 講師 博士(文学)</p> <p>担当 日本歴史文化特論 科目 日本歴史文化特論</p> <p>著書 「1910年代奈良県における民衆教化政策と被差別部落」(『史学雑誌』124-4)、「昭和初期司法省の転向誘発政策と知的情報統制」(『歴史学研究』965号)ほか多数</p>	<p>渡部 圭一 准教授 博士(文学)</p> <p>担当 民俗学特論 科目 民俗学特論</p> <p>著書 「オビシヤ文書の世界—関東の村の祭り」と記録」(共編、岩田書院)、「中世惣村の現在—近江国今郷郷故地の現地調査」(共編、琵琶湖博物館)</p>

2022年度 大学院 入学試験ガイド

■募集研究科及び入学定員

研究科	専攻・コース	入学定員	備考	
経済学研究科	経済学専攻・税理士養成コース	5名	※選考方法についての詳細は、 入学試験要項を参照してください。	
経営学研究科	経営管理専攻	20名		
人間文化研究科	人間文化専攻	文化研究コース		10名 (うち臨床心理学コースは 6名)
		社会情報コース		
		心理学コース		
		臨床心理学コース		
バイオ環境研究科	博士課程前期	20名		
	博士課程後期			3名
工学研究科	博士課程前期	15名		
	博士課程後期	2名		

■出願期間・選考日・合格発表日

	インターネット出願期間	選考日	合格発表日
A 日程	2021年9月21日(火)～10月3日(日) (出願書類の郵送は10月4日(月)消印有効)	2021年10月16日(土)	2021年10月25日(月)
B 日程	2022年1月6日(木)～1月16日(日) (出願書類の郵送は1月17日(月)消印有効)	2022年1月29日(土)	2022年2月16日(水)

*経済学研究科、人間文化研究科の学内推薦選考はインターネット出願を実施しないため、受付期間の最終日消印有効。
*経営学研究科はB日程のみ実施。

■2022年度 学費等 納付金額(予定)

経営学研究科・経済学研究科・バイオ環境研究科

研究科別 費目	経営学研究科		経済学研究科		バイオ環境研究科	
	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)
入 学 金	200,000円	—	200,000円	—	200,000円	—
学 費	授 業 料	750,000円	272,500円	272,500円	315,000円	315,000円
	施設設備費	—	96,000円	96,000円	75,000円	75,000円
	実験実習費	—	—	—	85,000円	85,000円
小 計	950,000円	750,000円	568,500円	368,500円	675,000円	475,000円
委託徴収金 学 会 費	—	—	2,000円	—	—	—
合 計	950,000円	750,000円	570,500円	368,500円	675,000円	475,000円

人間文化研究科

コース別 費目	文化研究コース・社会情報コース		心理学コース		臨床心理学コース	
	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)
入 学 金	200,000円	—	200,000円	—	200,000円	—
学 費	授 業 料	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円
	施設設備費	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円
	実験実習費	—	—	10,000円	10,000円	40,000円
小 計	568,500円	368,500円	578,500円	378,500円	608,500円	408,500円
委託徴収金 学 会 費	3,000円	—	3,000円	—	3,000円	—
合 計	571,500円	368,500円	581,500円	378,500円	611,500円	408,500円

工学研究科

研究科別 費目	工学研究科	
	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)
入 学 金	200,000円	—
学 費	授 業 料	325,000円
	施設設備費	75,000円
	実験実習費	100,000円
小 計	700,000円	500,000円
委託徴収金 学 会 費	—	—
合 計	700,000円	500,000円

*最終学歴が京都学園大学・京都先端科学大学(大学院含む)の方は、入学金100,000円(全研究科共通)、施設設備費半期分64,500円(バイオ環境研究科・工学研究科除く)となります。

大学院長期履修学生制度のお知らせ

長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、計画的に教育課程を履修し、修了する制度です。

1. 適用研究科 全ての研究科に適用されます。

2. 申請資格

- ① 職業を有している者
 - ② 育児、介護等の事情により、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者
 - ③ その他やむを得ない事情(身体の障がい、疾病等)を有し、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者
- ※外国人留学生(在留資格「留学」を有する者)は申請できません。

3. 履修期間

- ① 修士課程・博士課程前期の長期履修計画期間は、標準修業年数2年を含み最大4年
- ② 博士課程後期の長期履修計画期間は、標準修業年数3年を含み最大6年

4. 申請手続

入学日の原則20日前までに次の書類をご提出ください。

- ① 長期履修学生申請書
- ② 在職証明書(職業を有する者)
- ③ その他必要と認められる書類

5. 授業料等の取扱

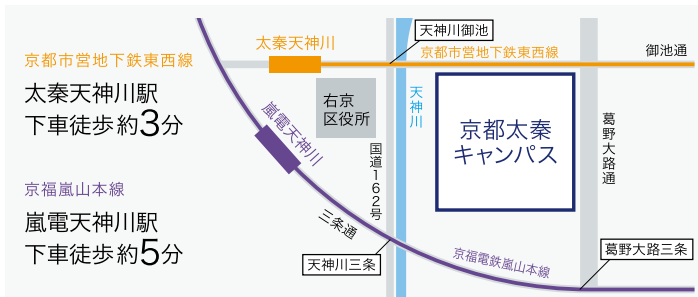
- ① 履修計画期間(標準修業年数に長期履修期間年数を加えた期間)における授業料等の額は、標準修業年数(修士課程・博士課程前期2年、博士課程後期3年)分の授業料、施設設備費、実験実習費(以下「標準修業年数分学費総額」という。)を履修計画期間で除した額となります。
- ② 履修計画期間に変更があった場合、標準修業年数分学費総額から、支払済み授業料等を差し引いた額を、残りの履修計画期間で除した額となります。

◎この件に関するお問い合わせは 入学センター 075-406-9270まで

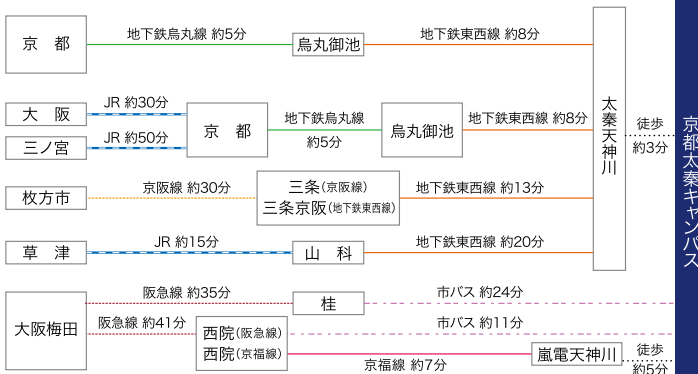
交通案内

京都太秦キャンパス

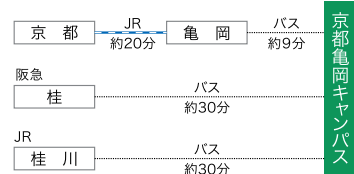
アクセス抜群の好立地!
関西の主要駅から1時間圏内



大阪・梅田より約**60分**、兵庫・三ノ宮より約**75分**、滋賀・草津より約**35分**



京都亀岡キャンパス



JR京都駅より約**30分**

BUS 1 JR亀岡駅よりバス9分
(本学学生料金110円)

阪急桂駅より約**30分**

BUS 2 阪急桂駅よりバス30分
(本学学生料金240円/京都縦貫自動車道経由)

JR桂川駅より約**30分**

BUS 2 JR桂川駅よりバス30分
(本学学生料金240円/京都縦貫自動車道経由)

自動車通学OK!
学生専用無料駐車場を完備!

自動車・バイクでの通学時間

- 京都市西部から約25分
- 長岡京市から約25分
- 高槻市・茨木市・池田市・箕面市・川西市・猪名川町方面から約40分

KUAS

KYOTO UNIVERSITY of ADVANCED SCIENCE

京都先端科学大学 大学院

<https://www.kuas.ac.jp/>

【入試に関するお問い合わせ】 入学センター

TEL/075-406-9270 E-Mail/nyushi@kuas.ac.jp



うずまさ 京都太秦キャンパス

〒615-8577 京都市右京区山ノ内五反田町18 TEL/075-406-7000(代表)

[経済経営学部] 経済学科/経営学科 [人文学部] 心理学科/歴史文化学科 [健康医療学部] 看護学科/言語聴覚学科
[工学部] 機械電気システム工学科
[大学院] 経済学研究科(修士課程)/経営学研究科(修士課程)/人間文化研究科(修士課程)/
工学研究科(博士課程前期・後期)



京都亀岡キャンパス

〒621-8555 京都府亀岡市曾我部町南条大谷1-1 TEL/0771-22-2001(代表)

[バイオ環境学部] バイオサイエンス学科/バイオ環境デザイン学科/食農学科 [健康医療学部] 健康スポーツ学科
[大学院] バイオ環境研究科(博士課程前期・後期)